札幌市立大学

# 研究・活動事例集

# 2014

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

札幌市立大学

# 研究・活動事例集

# 2014

札幌市立大学はデザインと看護の２学部、２研究科、助産学専攻科を設置し、「人間重視」と「地域社会への貢献」を基本理念に掲げ、デザインと看護の特色を活かした教育・研究・社会貢献活動に取り組んでいます。
本冊子は産学官連携・地域連携等にさらに積極的に取り組むため、多くの方々に本学の最新の活動事例をご紹介することを目的に発行いたしました。
札幌市立大学の教育・研究・地域社会との連携活動に関心を持っていただければ幸いです。

札幌市立大学

札幌市立大学

# 研究・活動事例集 2014

## Ⅰ. 研究交流活動＜ 2014 年度 SCU 産学官研究交流会＞


004　1. からだにやさしい移動・移乗支援補助用具の試作と実用性の検証
006　2. 授業を通しての地域連携活動の事例紹介
　　－「鞄のいたがき」: 革端材を利用した製品提案－
008　3. 産学官連携から生まれた強くて優しい帽子「アボネット」
010　4. 高齢者向け業務用総菜食品の開発
　　－軟らかくて食べやすい食材の開発－
012　5. 創造都市さっぽろの取組みについて
　　～メディアアーツを活用したまちの付加価値向上に向けて～
014　6. 創造性の解放－クラフター経済の隆盛－
016　7. セーフコミュニティをデザインする
018　8. 積雪寒冷地の冬季都市景観イメージに関する北海道とラップランドの比較研究
020　9. 寒冷地に暮らしてきた女性の尿失禁のリスク要因と対処行動に関する研究
022　10. ポスター・パネル展示発表


## Ⅱ. 展示会等の参加


024　1. ものづくりテクノフェア 2014（2014.7.24　アクセスサッポロ）
027　2. 環境広場さっぽろ 2014（2014.8.1 ～ 3　アクセスサッポロ）
029　3. けんこうフェスタ 2014 in ちゅうおう（2014.10.4　札幌市中央区民センター）
032　4. 第 28 回北海道技術・ビジネス交流会（2014.11.6 ～ 7　アクセスサッポロ）


## Ⅲ. 地域連携・地域貢献活動


042　1. 公開講座開催
044　2. 受託研究
044　3. 外部資金活用事業
045　4. 協力依頼
048　5. 地域貢献
050　6. 地域連携研究センターのご案内

# 1

## 研究交流活動

**＜2014年度SCU産学官研究交流会＞**
**2014年11月20日　サテライトキャンパス**

**第1部　「ウェルネス」**

1. からだにやさしい移動・移乗支援補助用具の試作と実用性の検証
2. 授業を通しての地域連携活動の事例紹介
   －「鞄のいたがき」：革端材を利用した製品提案－
3. 産学官連携から生まれた強くて優しい帽子「アボネット」
4. 高齢者向け業務用総菜食品の開発
   －軟らかくて食べやすい食材の開発－

**第2部　「創造都市：新しい価値の創造」**

5. 創造都市さっぽろの取組みについて
   ～メディアアーツを活用したまちの付加価値向上に向けて～
6. 創造性の解放－クラフター経済の隆盛－
7. セーフコミュニティをデザインする

**第3部　「萌芽的研究」**

8. 積雪寒冷地の冬季都市景観イメージに関する北海道とラップランドの比較研究
9. 寒冷地に暮らしてきた女性の尿失禁のリスク要因と対処行動に関する研究

10. ポスター・パネル展示発表

Title

# からだにやさしい移動・移乗支援補助用具の試作と実用性の検証

1

Author

田中 広美　檜山 明子　樋之津 淳子
札幌市立大学看護学部
杉 哲夫
札幌市立大学デザイン学部

## はじめに

移動･移乗とは､ある場所から別の場所に体を移動させる動作であり、その動作が自力でできるということは、自己の欲求を満たす、あるいは生活をする上で重要な要素である。

しかし、何らかの障害によって下肢筋力低下となり、麻痺などが原因で下肢の可動ができない場合は、自力での動作は難しくなり､他者の介助をうけて移動･移乗することになる。

医療機関における車椅子への移動・移乗の場面で、看護職者や介護職者の多くは、移動補助用具を用いることなく、自分の力を使って被介助者（患者）の身体を持ち上げ、介助していることが多い。

これは、移動支援補助用具が医療機関に十分に普及していない状況と、一瞬の移動動作に対し、移動補助用具を準備する時間と手間を惜しんでいるためと推測する。

このような介助者による被介助者の移動・移乗は２側面の弊害がある。

①介助者側：介助時の身体的負担（腰痛）
②被介助者側：他者にゆだねる心理的・身体的負担、活動意欲の低下

また、看護職が業務中に発症する腰痛有訴率は60.0%といわれ、移動・移乗動作介助はその腰痛の一因となっている。腰痛が持続し、徐々に悪化することで業務遂行が困難となり、その結果、離職に至るというケースもある。

このような身体的負担を軽減あるいは解消できないかと考え、移動・移乗動作を支援補助する用具の製作に取り組むこととした。

現在、おもに実施されているベッドと車椅子間の移動・移乗時の動作を以下①～③に示す。（写真）

①被介助者（患者）の背中に手を回し抱え込むようにゆっくり立ち、重心をベッドから床面に移動させる（前傾姿勢となり座位から立ち上がる）

②殿部を車椅子の座面に向くように回転させる（足を軸にして体をゆっくり回転する）

③車椅子の座面に移動するため、膝を曲げ体の重心を移動させて座る（車椅子の座面に殿部をおろす）

現在、介助者が被介助者を抱え込むような前述①、②の動作に着目し、腰痛の原因となる動作を解消し、被介助者にとっても抱え上げられずに水平移動動作できるような移動・移乗支援補助用具の製作に取り組んでいる。

ベッドと車椅子間の移動・移乗動作のようす
写真：大河原千鶴子他編集：看護の人間工学、医葉薬出版株式会社 2013.

## 目的

ベッドから車椅子間の移動・移乗を支援補助する用具の試作・提案を目的とする。

## 期待される成果

看護職者・介護職者など介助者の腰痛有訴率の減少あるいは解消ならびに被介助者（患者）の身体的・心理的負担感の軽減につながる、お互いのからだにとってやさしい医療用具となることが期待される。

現在、水平移動を可能にするスライディングボードがいくつか製品化されている。

例：モルテン社製イージーモーション
（楕円形型・長方形型）
TNK 社製（日本）かるいどうＰ型など

本研究グループでは、以下の６項目を重点的に検討した。

1）殿部をスライドした時の器具の中心部分のたわみを軽減化する
2）製品を持った時の重さが負担とならないため、重さとサイズのスリム化→目標重量　1.5Kg 以内
3）スライド時の殿部の移動のしやすさ（滑り）
4）製品の上をスライドする時の荷重に耐える素材の選択
5）持ち運び可能な形状
6）車椅子のアーム部分を外さず使用できる簡易さ

## 結果

第１段間の調査として、麻痺等の障害を持たない健康な 20 代の男女 10 名に対し試作品と商品化されている製品の両方の使用感を調査した。

そのデータをもとに、試作品の部分改良を重ね、第２段階の調査として、35 歳～ 75 歳までの麻痺などの障害を持たない男女 10 名に対し試作品と商品化されている製品の両方の使用感を調査した。

その結果は以下の通りである。

1）試作品と商品化されている製品の両方を使用してもらった結果、前者が後者よりたわみが少なく、移動時の安定感があることが分かった
2）丈夫さとの兼ね合いもあり、1.5kg にはできていないが、初期に 2kg を超えていた重量を 1.88kg まで減量できた
3）滑りやすさにおいて商品化されている製品より好感触が得られたが、移動動作に合致した滑りには課題がある
4）家具強度試験（北海道総合研究機構に依頼）において、破断検査で 300kg に耐えるだけの強度が確保できた
5）移動に邪魔にならないように持ち手をつけ、持つ部分をわかりやすくした
6）車椅子を選ばすに適応させられるようにするため、車椅子のアーム部分をはずさず設置でき、かつ重量が抑えられるような長さを検討した。

## まとめ

今後も、産官学連携を継続して改良を重ねながら、移動・移乗を支援する製品としての完成を目指す。

現在、特許申請中である。

試作品（写真）

使用状態参考図（移乗前）

（移乗後）

Title

# 授業を通しての地域連携活動の事例紹介
## -「鞄のいたがき」：革端材を利用した製品提案 -

2

Author

小宮 加容子
札幌市立大学デザイン学部

## １．はじめに

本学では、地域、企業と連携したさまざまな活動が行われている。

2013 年、前期にある「ヒューマンファクターズ入門（2 年生）」の授業の課題として、鞄のいたがき様のご協力のもと、「革端材を利用した製品提案」について取り組んだ。今回の報告では、授業を通じて学生と企業が連携し、提案した製品が店頭に並ぶまでのプロセスと活動を通しての気づきについて報告をする。

## ２．提案から販売までのプロセス

いたがき様と教員とで事前に打ち合わせをし、9 月 21 日－ 23 日大通公園にて実施されるクラフトマーケットへの出展の際に販売することを目標とした。

授業課題としては 34 名の学生が取り組みをし、その中から 3 名の学生が選出され、授業終了後は、その 3 名の学生を中心に有志の学生が集まり課外活動として取り組んだ。

授業では全 15 回中 6 回を本課題の時間とした。

まず、本学の木工室にて、いたがき様による講義と加工体験を実施した。講義では、いたがき様で販売されている製品を事例に革の特性、加工方法などについての紹介があった。加工体験ではキーホルダー制作を通してインク塗り、磨き、サーマル塗り、カシメ取り付け、イニシャル手打ちなどを体験した。受講生は、革に興味がある学生が多いが、実際に革を使った作品作りをした経験のある学生は少ないため、どの学生も熱心に話を聞き、体験に参加していた。講義および体験の様子を図 1 に示す。その他にも希望者については、いたがき本社にて工場見学および制作体験を実施した。

次に、アイデア展開については、個人での作業とグループでの作業を組み合わせ進めた。授業時間外に個人で革製品の市場調査、ニーズ調査、ユーザ設定をまとめ、アイデアを深めるようにした。そして、授業時間内に 4 ～ 5 名のグループに分かれ、各自の調査結果およびアイデアについて意見交換をした。また、ある程度のアイデアがまとまった段階で中間発表を実施し、いたがき様よりアイデアや制作方法についてアドバイスを頂いた。

その後、最終プレゼンにおいて全員が各自のアイデアについて発表をし、その中から 3 名の作品が選ばれた（1 名 1 作品）。

授業終了後は、選出された 3 名の学生を中心に有志の学生が集まり課外活動として取り組んだ。いたがき様と学生でメールのやり取りをし、アイデアの形が決まると、いたがき本社にて制作を行った。いたがき様には制作にあたっての材料、道具等の準備をして頂いたうえに、当日はスタッフ 1 名の方にご指導を頂きながら 3 名の学生が制作を行った。制作の様子を図 2 に示す。

最後に、クラフトマーケットのいたがき様ブースにて 3 名の作品を販売した。販売にあたっては、学生も参加させてもらい、売れ行きやお客様の様子なども実感することができた。販売の様子を図 3 に示す。

図 1 いたがき様による講義と体験の様子

図 2 制作の様子

図３ 販売の様子

## ３．選抜された３作品について

以下に、選抜された３作品について紹介をする。

①イヤフォンジャック「レザデコ」

（デザイン：神田杏樹）

近年、スマートフォンの普及が急速にのびており、その中でも 10 ～ 20 代は過半数がスマートフォンを所有している。イヤフォンジャックはサイズが小さいため、使用する革の面積が少なく、その分、価格も安く設定できる。さらに、革を使用したイヤフォンジャックはない。

10 ～ 20 代の若者を対象にした、温かみのある革の良さを生かしたイヤフォンジャックの提案である。ビスケット、ピザ、ケーキなど食べ物をモチーフにし色の異なる革を用いた作品に仕上げた。図５に作品を示す。

②ジップタグ「Zip Tag」

（デザイン：佐藤南津子）

購入者自らが手を加えることで、愛着を持ち長く使ってもらうことを目指したジップタグの提案である。透明なパッケージに開いた状態の革製ジップタグ（予めステッチ用の穴が空いている）と、カラフルな刺繍糸を同封することで購入者が自らカバンのジップに通して挟み、簡単なステッチをして完成する。ジップタグをとりつけることにより、カバンのワンポイントとなりファッション性が高まるだけでなく、冬に手袋などをしていてもジップがつまみやすく、革製であるためすべりづらくなり、カバンが開けやすくなる。そして普段何気なくたくさん触れるところなので、経時的に革の味わいが増していく。さらに、ひとつあたりの面積が大変小さく、コスト面もクリアしているといえる。図６に作品を示す。

③イヤフォンジャック「Hokkaido ジャック」

（デザイン：松田美香）

キタキツネ、北海道（地形）、雪の結晶、牛乳瓶など北海道にまつわるものをモチーフにしたイヤフォンジャックの提案である。イヤフォンジャック本体と革製品の部分は取り外しができるようにすることで、他のデザインに変えたい場合は革製品本体のみの価格で購入できる。

普段革製品に触れる機会が少ない若者もイヤフォンジャックであれば、革を身近なものに感じることができる。図７に作品を示す。

## ４．おわりに

今回の課題は、普段、革に触れる機会が少ない学生にとって、革の良さを活かしたいと思う気持ちはあるものの、革の特性や革製品の良さについての知識、経験が浅く、とても難しい課題であったようである。しかし、授業を通じて学生と企業が連携し、提案した製品が店頭に並ぶまでのプロセスをたどることができた。これは､学生にとって､とても貴重な経験であった。

多くのご支援とご指導を賜りました、鞄のいたがきの皆様に深く感謝いたします。

図５ イヤフォンジャック「レザデコ」

図６ ジップタグ「Zip Tag」

図７ イヤフォンジャック「Hokkaido ジャック」

Title

# 産学官連携から生まれた強くて優しい帽子「アボネット」

3

Author

藤本 欣也
株式会社特殊衣料

## １）株式会社特殊衣料

社員 162 名　内障がい者は 25 名。

年商は 13 億 4800 万円。

主な業種は、病院・施設のリネン業、病院・施設の清掃業、福祉用具の製造卸販売。

創業当時、病院・施設内で必要なものは、院内で工夫して作っていたりボランティアさんが力を発揮していた。

その作られたものが、洗濯ものとして工場にたくさん戻ってきていたこと、そして、修理のためのミシンがあったこと、付添いさん制度がなくなったことなどが重なり当社が製造に力を注ぐことになる。

## ２）保護帽のスタート

1994 年当社の保護帽の原点である障がい者用の『愛帽』ができた。それまで必要な方は、義肢装具屋さんが作ったなめした本革製の保護帽を被っていた。しかし、保護帽を必要としている方は、四六時中被っていなくてはならないにも拘らず、皮は汗を吸うと異臭を発生するので洗うことができるものが求められていた。

スタートは、そんなお客様からの要望から保護帽の商品開発が始まった。

## ３）産学官連携へ

2000 年札幌市から『福祉用具のデザイン開発・研究プロジェクト』のお誘いを受けた。

官の札幌市経済局、学の札幌市立高等専門学校（現札幌市立大学）そして、産として社団法人日本福祉用具供給協会北海道支部の会員として当社が参加した。

開発テーマは、冬期間被れる一般的なデザインの保護帽だった。

当社は、『愛帽』の見た目の悪さをデザイン力で変えることができればと思い参加した。

札幌市としてもスパイクタイヤの禁止からミラーバーンによる転倒事故から救急車の出動回数が増加の一途をたどっていた。

そこで当時の工業デザインの先生方にデザインの部分で参加していただきプロジェクトがスタートした。

## ４）産学官連携の難しさ

スタート時点では、当社にはデザイナーがいない上、ましてやデザインに関する知識やデザイナーがなんたるかを理解するまではかなりの時間を費やした。

先生方の言うことがさっぱりわからず「どうしてそんなに時間をかけるのか？」「工業デザイナーはグラフィックができないのか？」という頓珍漢な質問をする中小企業の典型だった。

冬用の帽子だったのでカタログ用の写真撮りに雪のあるニュージーランドに行って撮影しましょうという言葉に度肝を抜かれた。

低レベルな企業だと思う先生方と中小企業のことを分かってくれないと嘆く企業。

そんな、わけのわからない中小企業との間に入ってコーディネートしてくれたのが、札幌市経済局だった。

結局先生方は、デザイナーが調査、実験、広報、販売に至る作業などトータルなディレクションを行う羽目になり一般的なプロジェクトでは見られない珍しいケースの活動となった。

先生方の中にホンダ出身の先生がいたことで保護帽の裏付けである衝撃度データーの必要性を明確にしてくれたことも開発には必要べからざることだった。

## ５）アボネットの誕生へ

2001 年には、年間 26 回の打ち合せを通して形づくりをしてきた。

技術を上げるために退職した帽子職人や札幌オリンピックの帽子のデザイナーさんに会社に来てもらいアドバイスも受けた。

モニターやマーケティングのために国際福祉機器展に出展したり雪まつり会場では、市民のアンケート調査をしたり当時の桂市長と青森市で開催された北方圏会議にも出展をした。

アボネットのネーミング・マークも学内の公募で選ばせてもらった。

そしてやっと 2002 年夏の市長記者会見で 3 アイテムを発表し丸井今井で販売を開始した。

国際福祉機器展出展

クリスマス市で販売

・国際福祉機器展出展
・いきいき福祉・介護フェア出展
・地下街コンコースふれあい広場にて展示
・市役所本庁舎ロビー展示
・ミュンヘンクリスマス市に出展

## 6）アボネットの変遷

＜ 2003 年＞

・道内のデザイン賞を数々受賞しその年のグッドデザイン賞商品デザイン部門を受賞した。

＜ 2004 年＞

・北海道電力の検針員さんの帽子を作ることになった。
1000 人近い人の頭のデーターを取りこのデーターが、それからの帽子作りの良きデーターとなったと共に社会的信用と大量生産するノウハウを学んだ。
帽子を被っていた北電の職員さんが車同士の衝突事故に巻き込まれた時もかすり傷で済んだことから、職員の命が助かったと喜んでいただき夏用の帽子の発注に弾みがついた。

＜ 2005 年＞

・雪まつりの視察に来た小泉元首相がアボネットを被って大通りを歩いてくれた。これも産学官連携のなせる業だ。

＜ 2006 年＞

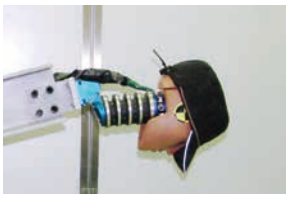
・銀座松屋が展示即売会を開催。

＜ 2008 年＞

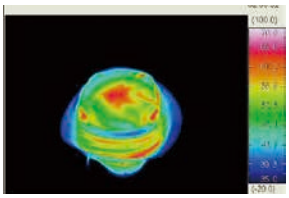
・経済産業省北海道経済産業局　新連携事業認定

＜ 2011 年＞

・地元の小学校 1 年生にアボネット EVA インナーの寄贈をスタート。
・住ベテクノプラスチックと共同開発したスミキャップをインナーとしたアボネット JOB を発売。
・一般財団法人日本自動車研究所と共同開発の上、アボネット JARI を発売。



ダミー人形の試験



サーモグラフィー

＜ 2012 年＞

・グッドデザイン賞をアボネット +JARI で 2 度目の受賞
・ワールドビジネスサテライトの「トレンドたまご」に取り上げられた。
・アボネット +JARI がカタログハウスに認められ通販生活に掲載。
・アデランスが医療用ウィッグ販売時にアボネットスムースキャップをプレゼント。
抗がん剤治療の患者さん用として現在は、全国のアデランスのショップで販売中。

＜ 2013 年＞

・トヨタ自動車とウィングレット用乗車帽の共同開発。モーターシーで使われた。
中小企業が大企業からオファーがかかるということは、産学官連携による功績が大である。
・NHK「まちかど情報室」にて紹介。
・大阪大学医学部付属病院で病棟内での転倒事故から入院患者さんを守るためにアボネットを採用。
・台湾への輸出がスタート。

＜ 2014 年＞

・国際福祉機器展、危機管理産業展に出展。
地震や噴火など天変地異から少しでも守るという考え方が浸透してきていて大手メーカーから様々なオファーを頂戴する。

## 7）終わり

当時、産学官連携で成功した例はない、試作だけで終わり最終的な商品にはならないと周りの経営者から言われていた。

ではなぜ成功したかというと、一番にコーディネーターの指導力があげられる。両者の食い違う意見を根気よく聞きながら目標に導く力が必要だということである。

産学官連携で得た当社の信用は、計り知れないものがあった。

そして、これからも。

Title

# 高齢者向け業務用総菜食品の開発
## ―軟らかくて食べやすい食材の開発―

4

Author

熊林 義晃　東 孝憲　柿本 雅史
北海道立総合研究機構食品加工研究センター

## はじめに

我が国の食市場において、外食・内食がここ数年縮小傾向にある中で、総菜や弁当などの中食は唯一拡大を続けている市場です。中食の利用意向に関する年代別調査（農林水産省）では、「利用を増やしたい」との回答が60歳以上の年齢層で最も多く、高齢者の咀嚼能力や嗜好に応じた食品開発の重要性が高まっています。

当センターは、日本介護食品協議会が高齢者向けに制定したユニバーサルデザインフード（UDF）の区分「区分1: 容易にかめる 」（参考資料1）を指標に、義歯装着等で「かむ力」がやや低下した高齢者の方に適した軟らかく食べやすい業務用総菜食品の製造技術を開発し、試作品の製造やその評価を行いました。

## １. 容易にかめる硬さの農畜産食品素材の開発

栄養士による官能評価で硬さの度合いを点数化し、適切と評価された食品の物性値を特定することで、適切な硬さの目標範囲を設定しました（図1、図2）。また、硬さを調整する製造技術を開発し、試作品を製造しました。

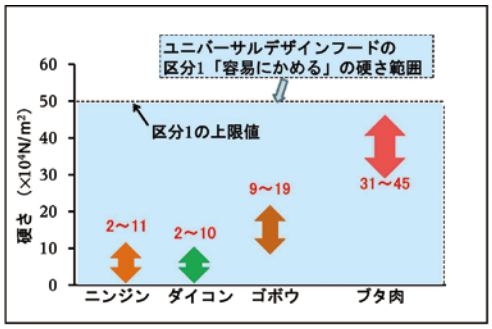



図１　各食材の容易にかめる硬さの目標範囲

図２　栄養士による硬さ評価

## ２. 総菜の試作・評価および試作実証試験

協力企業でスケールアップした試作実証試験を実施しました（図3）。

病院や老健施設の栄養士らによる試作品（図4）の評価を行い（参考資料2）、以下を確認しました。

・厨房での調理作業の軽減
・硬さ目標範囲が高齢者向けの食材として適切

図３　企業による試作品製造
（レトルト加熱工程）

図４　実証試験の試作品（農産物）
（左からニンジン　ダイコン　ゴボウ）

## ３. 普及活動

総菜食品製造企業や小売企業、卸売企業、高齢者向け宅配給食製造企業、病院、介護老人保健施設に業務用総菜食品の試食や情報提供を行うとともに（参考資料3）、開発した技術や業務用総菜食品について、冷凍食品技術研究会（北海道冷凍食品協会）での講演などを実施し、成果普及を行っています。

## 参考資料１　ユニバーサルデザインフード区分

日本介護食品協議会が定めた UDF（ユニバーサルデザインフード）の区分

自主規格として硬さの上限値が定められている

| 区　分 | | 区分1 容易にかめる | 区分2 歯ぐきでつぶせる | 区分3 舌でつぶせる | 区分4 かまなくてよい |
|---|---|---|---|---|---|
| かむ力の目安 | | かたいものや大きいものはやや食べづらい | かたいものや大きいものは食べづらい | 細かくてやわらかければ食べられる | 固形物は小さくても食べづらい |
| 飲み込む力の目安 | | 普通に飲み込める | ものによっては飲み込みづらいことがある | 水やお茶が飲み込みづらいことがある | 水やお茶が飲み込みづらい |
| かたさの目安 | ごはん | ごはん～やわらかごはん | やわらかごはん～全がゆ | 全がゆ | ペーストがゆ |
| | さかな | 焼き魚 | 煮魚 | 魚のほぐし煮（とろみあんかけ） | 白身魚のうらごし |
| | たまご | 厚焼き卵 | だし巻き卵 | スクランブルエッグ | やわらかい茶わん蒸し（具なし） |
| | 調理例（ごはん） | | | | |
| 物性規格 | 硬さ上限値（N/m²） | $50 \times 10^4$ | $5 \times 10^4$ | 固体:$2 \times 10^4$<br>液体:$1 \times 10^4$ | 固体:$5 \times 10^3$<br>液体:$3 \times 10^3$ |

日本介護食品協議会HPより 一部改変

**UDF区分1を指標として目標とする硬さを設定**

## 参考資料２　試作品の情報提供と評価

● 北海道社会福祉協議会主催　老健施設の栄養士向け専門研修

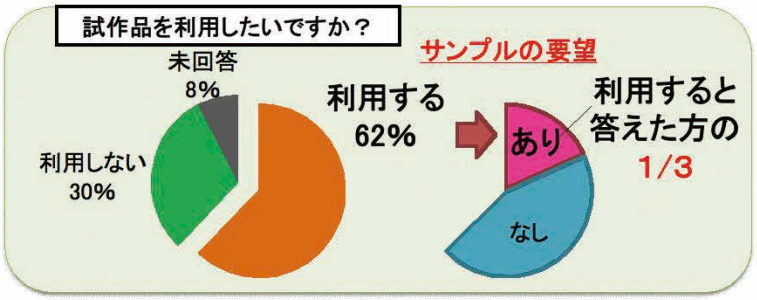
（2013.11.20-21　協力　北ガスクッキングスクール）

試作品の紹介

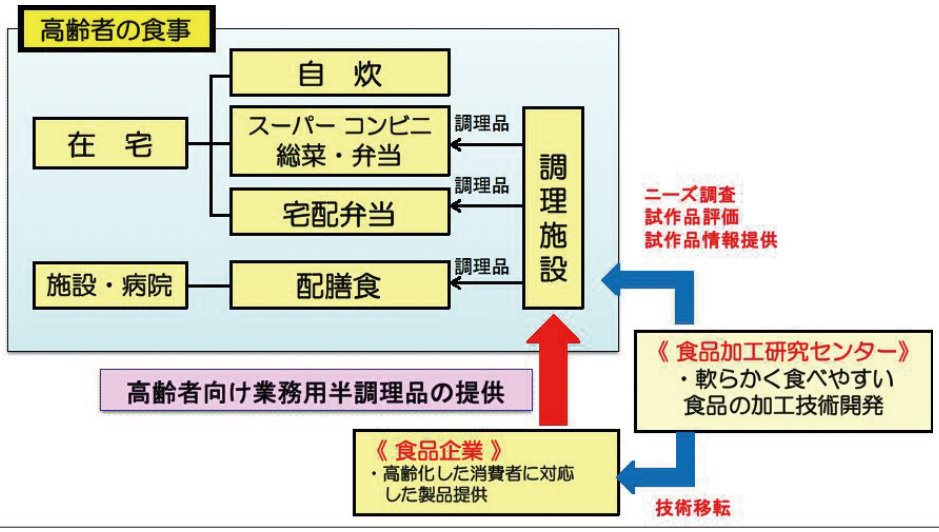
総菜調理例

試作品の試食

アンケート実施
（回答者66名）




## 参考資料３　普及活動



Title

# 創造都市さっぽろの取組みについて
## ～メディアアーツを活用したまちの付加価値向上に向けて～

5

Author

**山口 康広**
**札幌市市長政策室政策企画部創造都市推進担当**

### 【創造都市さっぽろとは】

札幌市は、文化芸術の多様な表現に代表される創造性を活かして、産業振興や地域の活性化などを図り、さまざまな都市課題を解決する「創造都市さっぽろ」の取組みを都市戦略として進めている。

＜島袋道浩（一石を投じる）*1＞

平成 18 年 3 月には「創造都市さっぽろ」宣言を行うとともに、平成 21 年 1 月には、「大規模な文化芸術施設の整備・イベントの開催」、「コンテンツ産業の担い手育成」、「デザイン学部を有する市立大学などの教育研究による人材育成」などの実績が認められ、文化庁長官表彰「文化芸術都市部門」を受賞するなど、国内で一定の評価を得るまでになった。

＜ kitara、iCommons Summit、ICC、市立大学＞

### 【創造都市さっぽろの新たなステップ】

このよう状況を踏まえ、創造都市さっぽろの世界に向けた新たなステップとして、世界の創造都市との知の交流や新たな都市ブランドの創出を図ることを目的に、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟を目指して取り組んできたところである。

＜ネットワーク年次総会 2011（ソウル）＞

### 【ユネスコ創造都市ネットワークとは】

ユネスコ創造都市ネットワークとは、平成 16 年にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が創設したもので、創造的・文化的な産業の育成、強化によって都市の活性化を目指す世界の都市が、国際的な連携・相互交流を行うことを支援する枠組みである。平成 26 年 10 月末現在、札幌市も含む世界の 41 都市が加盟している。

加盟分野には 7 分野あり、札幌市は IT やデジタルコンテンツの企業が集積し、大規模な文化芸術イベント、施設も豊富にあり、メディアアーツ（デジタル技術と芸術を融合した新しい芸術表現）を創出、活用する素地があるなどから、メディアアーツを加盟分野として選んだところである。

＜市民参加で創る北2条広場メディア空間＞

**【市民の創造的活動を刺激する取組み】**

その後も、創造都市さっぽろの取組みとしては、地下鉄コンコースをアート作品展示空間とした札幌大通地下ギャラリー「500m 美術館」、著名な芸術家の作品を設置した創成川公園をはじめ、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）を単なる通路ではなく、芸術・文化の発信拠点と位置づけて整備するとともに、国際短編映画祭、サッポロ・シティ・ジャズ、パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）、さっぽろアートステージなど、市民が身近に文化芸術に親しみ、市民の豊かな創造性を涵養する機会提供に努めてきた。

＜500m 美術館、チ・カ・ホ、創成川公園、PMF＞

**【メディアアーツ活用によるまちの付加価値向上】**

平成 25 年 2 月のさっぽろ雪まつりでは、メディアアーツの分かりやすい事例であるプロジェクションマッピングを大雪像に投射し、既存の観光資源の付加価値向上を図るなど、メディアアーツによる観光振興やこれらに関わるデジタル産業振興への取組みも進めているところである。

＜雪まつり大雪像「豊平館」プロジェクションマッピング＞

このように札幌市が取組むメディアアーツ活用の特徴は、自然環境を背景にして、大通公園に代表される広大な都市型祝祭空間を活かして、いわば都市自身がメディアとなって都市の魅力を発信していくことである。

＜ YOSAKOI ソーラン祭り、サッポロ・シティジャズ、ホワイトイルミネーション、雪まつり＞

**【加盟認定】**

こうした取組みが評価され、平成 25 年 11 月 11 日に、メディアアーツ分野では、アジアで初めてユネスコ創造都市ネットワークの加盟が認められた。

UNESCO
United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

SAPPORO
City of Media Arts Designated UNESCO Creative City in 2013

＜ロゴマーク＞

**【今後の展開】**

札幌市は、ユネスコ創造都市ネットワークを活かした文化を軸とした加盟都市との交流や、メディアアーツを活用した既存の都市資源を高付加価値化する取組みを積極的に進め、都市ブランドの向上や産業振興・人材育成など図り、まちの活性化につなげていくこととしている。

＜坂本龍一＋真鍋大度（センシング・ストリームズ－ 不可視、不可聴）*2＞

＊1、2の写真
提供：創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会
photo:Keizo Kioku

Title

# 創造性の解放－クラフター経済の隆盛－

6

Author

武邑 光裕

札幌市立大学デザイン学部

## １. 消費者の飛躍

20 世紀の経済システムにおいて、「消費」という行為は重要な位置を占めていた。大量生産・大量消費の経済において、消費は生産を支える基盤であり、消費は生産供給に従属する動力であった。しかし、インターネットとともに 90 年代に生み出された金融システムは、それまでとは全く違った新しい仕組みを作り出した。大量消費を通過する事なく、何倍もの利益を生み出すというメカニズムである。こうした時代変化の中で、消費や消費者自体にも大きな変化が到来することになる。それは、消費者の飛躍とも呼べる現象である。

21 世紀に入って、ソーシャルメディアの台頭がもたらしたのは、無数の「作者（でもある消費者）」の出現である。消費者生成メディアやコンテントの膨大な発生は、これまで受動的な鑑賞者や消費者であった人々をコンテントの生産者に変えた。人々は、あらゆる生活の場面で、旧来の消費者からの飛躍をはじめたのだ。

一方、日本各地でガラス張りの料理教室が繁盛している。ここで料理をつくる女性たちは、閉じた空間で料理を習う消費者ではない。彼女たちは、行き交う通行人の視線を浴びる生産者で演者でもある。それが日々の料理の担い手たちの成熟を促していく。当然、ガラス越しにいきいきと調理に取り組む彼女たちをみて、自分も創り手であり演者になりたいと思う人々を誘う。

全国各地に増加している手芸用品店の増加傾向も著しい。いまや従来の手芸愛好家の需要だけでなく、多くの人びとが手芸と関わっている。財団法人「日本生産性本部」の「レジャー白書」によれば、2006 年に 600 万人だった洋裁・和裁人口は、2010 年に 2 倍以上の 1220 万人を数える。2013 年の「レジャー白書」での「編物・織物・手芸」人口は、1480 万人である。平成 21 年の総務省「全国消費実態調査」によれば、この 10 年で「被服及び履物」の一世帯あたりの一ヶ月の消費支出は低下が続いている。これは不況や低価格衣料品が支持されている影響といえるが、安価とはいえ、皆と同じ服では自分の個性がでない。そこで、自分を表現しようとする消費者の創造性の発揮が、この手芸や手作りブームを後押ししている。

中高年女性の趣味の世界と思われてきた「手芸」は、今では若い男女の「自分を表現する」創作意欲と結びつき、世界的にも「手工芸経済＝クラフター・エコノミー」として注目されている動向とも符合する。

同時に、従来の製造産業に革命をもたらすと予測される 3D プリンターによる個人のモノ作りや、世の中に膨大な余剰として存在する高度な技術を個人が引き寄せ、従来の高度なモノ作り産業基盤でしか作成できなかったハイテク製品自体を個人やグループで創りだすという「メーカーズ（Makers）運動」[1] や DIY 文化などが世界的に拡大している。

## ２. 創造性の解放

かつて「創造」は、神のみが有する力だとも考えられていた。これまで、消費は受動的なもので、創造という主体性より評価されなかった。しかし、1970 年代にアメリカの未来学者アルヴィン・トフラーが指摘した「生産消費者」という概念や、フランスの歴史学者ミシェル・ド・セルトーの指摘した「消費者による生産」、あるいは哲学者ロラン･バルトの有名なエッセイである「作家の死」を詳述するまでもなく、今日、私たちの周囲には、生産と消費、供給と需要という単純な二元論が通用しない世界が現れている。

ロラン・バルトは『物語の構造分析』（花輪光訳・みすず書房 1979/11）の中で、作家＝創造者を次のように指摘した。

「作者というのは、おそらくわれわれの社会によって生み出された近代の登場人物である。われわれの社会が中世から抜け出し、イギリスの経験主義、フランスの合理主義、宗教改革の個人的信仰を知り、個人の威信、あるいはもっと高尚に言えば《人格》の威信を発見するにつれて生み出されたのだ。」（80p）

バルトは、「作品」とは様々なものが引用された織物のようなものであり、あたかもそれを一から生み出したとする「作家」それ自体を懐疑した。「作品」を解くのは読者であるとして、芸術作品に対してそれまで受動的なイメージしかなかった受信者側の創造的な「関与」を強調したのである。

消費し、需要する側も、実は何らかの生産に関与し

1 http://engineer.typemag.jp/article/wiredconference2012

ている。生産と分配の経済システムは、均質化するモノ、既成品にあふれた社会を生み出した。その均質化のプロセスが浸透する中で、実は消費者たちは何かを巧妙につくりだしているのではないか。これがド・セルトーの『日常的実践のポイエテイーク』（山田登世子訳・国文社 1987/5）の観点である。

「拡張主義的で中央集権的な、合理化された生産、騒々しく、見世物的な生産にたいして、もうひとつの生産が呼応している。こちらのほうの生産は、さまざまな策略を弄しながら、あちこちに点在し、いたるところに紛れこんでいるけれども、ひっそりと声もたてず、なかば不可視のものである。なぜならそれは、固有の生産物によってみずからを表わさず、支配的な経済体制によって押しつけられたさまざまな製品をどう使いこなすかによっておのれを表わすからだ。」（14p）

消費の内に生産や創造性を読み取るこのド・セルトーの視点は、生産の概念、あるいは創造の領域を自然に拡張させる。ド・セルトーが問題にするのは、消費者や鑑賞者には創造性がないと志向するようになってしまった社会のあり方であり、これまで生産側に占有された創造性の解放であったのだ。

## ３. 贈与と交換

人々は、生産と分配の社会システムから、「贈与と交換」の社会システムを志向しはじめているとする指摘は、近年「シェア経済」や「フリー」といった言葉とともに、インターネット社会の現象として広く考察されている。米国のインターネット社会企業家クリス･アンダーソンは、『フリー（無料）からお金を生みだす新戦略』（日本放送出版協会 2009/11）という著作の中で次のように指摘する。

「アマチュアの創作意欲を動機づけるのは、お金でなければなんだろうか。啓発された利己主義こそ、人間のもっとも強い力なのだ。人々が無償で何かをするのはほとんどの場合、自分の中に理由があるからだ。それは楽しいからであり、何かを言いたいから、注目を集めたいから、自分の考えを広めたいからであり、ほかにも無数の個人的理由がある。」（P250）

創造経済とは、これまでの供給型経済から、消費者や需要側の表現欲求や創造性から生じる経済活動であり、さらに単純な金銭的利益を追求するものではない。フィンランドで「クラフター経済」の可能性を追求する研究者ウッラマーリア・ムタネンのエッセイ「手芸愛好家の経済」（yomoyomo 訳 Make: Technology on Your Time Volume05, オライリー・ジャパン）によれば、これまでの「市場のシステム」とは次のようなものである。

(1) 利益が交易の動機である。
(2) 交易はお金を基盤とする。
(3) 値段は需要と供給で決まる。
(4) 需要はマーケティングを通じて誘導される。

これに対して、「クラフター（工作や手芸の好きな人たち）たちの経済」は次のようなものであるという。

(1)「学習、認知、そして、互恵は、少なくとも経済的利益と同じくらい、クラフターたちの交易の動機となる」
(2)「クラフターにとっては、金銭の取引よりも、物々交換や会話のほうが交易の形式において、より重要である。」
(3)「つながり（Links）がクラフターたちのモノの価値を決める。クラフターたちは何か新しいものを学べるモノを評価する。」
(4)「クラフターが求めるものは、単に買ってくれることではなく、認知してもらうことである。」（14p）

## ４. 創造経済の基盤

経済の第一の系統が「生産と分配」の経済であるとすれば、創造経済やクラフター経済の動向とは、第二の系統、つまり「贈与と交換」の経済ということができる。「生産と分配」の経済は、同質性の高い社会に根差し、その同質性をさらに強める。これまでの大量生産・大量消費社会がそれである。「贈与と交換」の経済は、最初から多様性を内部に包んだ異質性の高い世界をつくる。今、私たちの社会を変動させているものは、生産と分配から、贈与と交換の経済へのシフトであるともいえる。そうであれば、これまでのような規模の経済ではなく、個の経済、あるいはそうした創造的な消費者を軸とする経済活動の可能性が見えてくる。

米国のソフトウェア会社 Intuit の調査[2]によれば、現在、米国の労働人口の３人に１人（約 4200 万人）が個人労働者（フリーランス）であり、その数は 2020 年までに、全労働人口の 40% にあたる 6000 万人になると予測されている。これらの現象も個の経済活動の隆盛である。日本でも終身雇用が崩壊し、労働市場自体に大きな変化が生じている。人々は、自ら職を選び、職を創出していく時代と向かい合う。

創造経済を支えるのは、消費者から生産者になる市民、受動的な読者から日々の SNS で「作家」になっている市民、鑑賞者から演じ手になっている市民だけでなく、日々の家事や労働、学習、そしてあらゆる生活に関与するすべての人々である。創造性は個々の革新的な才能ではない。それは、世界を変える集合的な能力なのである。そして、次代の創造都市と創造経済の目的とは、人々の創造性を阻害するさまざまな障壁を認識し、それらを調停していく努力なのである。

2 Intuit 2020 Report-TWENTY TRENDS THAT WILL SHAPE THE NEXT DECADE
http://http-download.intuit.com/http.intuit/CMO/intuit/futureofsmallbusiness/intuit_2020_report.pdf

Title

# セーフコミュニティをデザインする

7

Author

山田 典子
札幌市立大学看護学部

## １．はじめに

セーフコミュニティとは、住民らが連携して安全なまちづくりに取り組む自治体を指す名称で、WHO（世界保健機関）セーフコミュニティ協働センターが推進する、安全・安心なまちづくりの国際認証制度です。セーフコミュニティでは、地域の安全な暮らしをおびやかす大きな要因である「けがや事故」に着目し、「けがや事故は偶然の結果ではなく、原因を分析し、対策することで予防できる」という理念のもと活動を行っています。また、単に“安心なまちづくり”を目指すのではなく、外傷およびそれによる安全・安心への脅威を「保健医療上の課題」としてとらえ、セーフティプロモーション（Safety Promotion）に則り、公衆衛生学的アプローチによって予防しようとする取り組みがなされています。

要するに、セーフティプロモーションとは、住民が幸せに暮らせるようにするために、事故や暴力、及びその結果としての外傷や死亡を、部門や職種を越えた協働によって、科学的に評価可能な介入により予防しようとする取り組みです。具体的には、外傷サーベィランスのシステムを構築し、地域における外傷の実態を把握したうえで具体的な解決プログラムを策定し、専門職並びに住民や地域にある民間資源を活用し、課題解決を推進していくものです。

## ２．対象分野と本日のテーマ

セーフティプロモーションの対象となる分野は家庭内外の不慮の事故など様々です。例えば、交通事故、転倒や火傷、誤嚥、窒息など家庭内の事故、労働作業環境での事故等、暴力（他人からの暴力、親密な相手からのDV、児童虐待、高齢者虐待等）や自分への暴力（自殺や心中）等に代表される外傷すべてが対象となります。また、犯罪に関連する傷害予防の観点からすると、街頭犯罪の防止対策、とりわけ犯罪被害リスクの高い子どもの事件の７割が発生する通学道路や公園など、公共空間犯罪に対する予防安全対策も該当します。

昨今、犯罪総量は減少傾向にあるものの体感治安不安感、すなわち犯罪に巻き込まれるのではないかという不安を高める報道等が目だち、不安感の改善対策が警察を中心に進められてきました。しかし、これまでの縦割り行政や官主導の安全対策では「安全」と「安心」の隙間を埋めることができず、課題解決が困難であるとの認識が高まってきました[1)]。

そこで今回は、子どもの安全に焦点をあて報告いたします。

## ３．子どもの安全対策と統計

人口動態調査統計（平成25年度）によると、1歳未満の乳児の「不慮の事故」による死亡は第4位で89名となっています[2)]。日本の乳児死亡率は諸外国と比べても低く、「不慮の事故」の対策も予防に関する普及啓発以外の対策が進んできませんでした。しかし、「不慮の事故」に加害などを加えた死亡率（乳児の外因死率）は、先進国の中で最低です。スウェーデンと比べると日本の外因死率は4倍にものぼります。

「不慮の事故」の死亡順位を年齢群別にみると、1～4歳は第2位（123人）、5～9歳は第1位（103人）、10～14歳は第2位（95人）、15～19歳では第2位（341人）です。15歳以上では、「不慮の事故」を上回り「自殺」が増加しています。10～14歳で75人、15～19歳で510人が尊いいのちを自ら絶っています[3)]。

「不慮の事故」とは、体の外から作用する急激で偶発的なもの」です。思いがけない出来事や予測不可能で急に起こった事故などを意味します。主に外的な要因によって引き起こされた事故を指すことが多く、「不慮」という文字から、「偶発的で予見できない」というイメージを抱きがちです。予見できないものの予測は困難です。しかし、英語で外傷は「Injury」と表記され、思いがけないアクシデントではなく、予測可能なインジャリー（傷害）と位置付けて、不慮の事故のみならず暴力や虐待、自殺等の意図的な事態に対しても傷害予防活動を展開しています。

前述のスウェーデンでは、傷害全般に対する予防プログラムを実施し、地域住民の参加型予防活動の展開で成果を出しています。同じく日本国内でもセーフコミュニティに取り組む自治体で、自宅内でのけがの防止や学校内でのけがの防止に取り組み、例えば、校内安全マップを作成した小学校では、取り組み前と比べ、けがが28.5％減少しているといった調査結果が出ています[4)]。

他にも子どもの安全対策委員会を立ち上げ、幼稚園や保育所、小学校を対象とした交通安全教室や自転車マナーの向上を目指した街頭キャンペーンなどを実施しています。また、全中学校区において安全マップを作成し取り組み前と比べ、自転車事故の件数は、9.7％減少しています。一方、交差点での事故の割合は増加しているため、引き続き原因を究明し新たな対策プログラムを策定し、住民とともに取り組みを進めています。

## ４．安心感改善への取り組み

子どもの防犯に関する特別世論調査によれば、人々の不安感形成要因の第１位は「マスコミ報道（85.9％）」で、次いで「近隣の顔見知りが少ない（33.2％）」、「通学路･公園など人通りの少ないこと（30.8％）」でした。実際に身近なところでの事件発生による不安と回答したものは１割強でした[5)]。このような調査結果をもとにセーフコミュニティ活動として、子とも関連の凶悪事件の抑止対策、近隣コミュニティの絆の回復、防犯灯の設置などによる危険・不安な公共空間の安全対策の推進、地域での子ども見守り、声掛け活動、防犯パトロールなど、コミュニティを基盤とした多様な安全安心対策が包括的に行われています。犯罪総量の抑止を核とする警察主導の安全対策だけでは客観的安全は得られても、主観的安心の改善には限界があります。セーフコミュニティ活動で行政や地域を巻き込んでいくことによって課題解決を図ろうとしています。

2015 年にセーフコミュニティの認証を目指す鹿児島市長は、「取り組みを通して薄れつつある地域の連携が生まれ活性化してきた」と述べています[6)]。このように、セーフコミュニティ活動は、「安全、住民、連携、指標、認証」をキーワードに世界中で進められています。

## ５．外傷サーベィランスとはなにか

サーベィランスとは、監視するシステムのことです。外傷の発生状況を正確かつ継続的に調査・把握し、その情報を基に外傷の予防と管理をはかる一連のシステムをさしています。

日本における外傷サーベィランスの特徴は、救急搬送を中心に、警察データ、厚生データ、アンケートなどを組み合わせて実施している点で、病院でのデータ収集が難しいため、電子カルテを活用した外傷サーベィランスシステムを立ち上げている自治体もあります。

我が国で最も必要性の高い傷害の実態把握と分析には、「交通事故」と「労働災害」があげられます。しかし、自宅で発生した「障害」は報告先がなく情報を収集する仕組みがありません。過去にこんにゃくを主原料とした食品の製造が窒息死の対策として製造中止になりましたが、その後も残念な事故が起こっています。窒息死の原因究明を製造者の責任を追及することで解決したかのように見えましたが、実は、原因の解明をヒト、モノ、環境、法律の側面から十分に分析していませんでした。こんにゃく製品以外の餅・ご飯・肉・魚などで窒息する人はこんにゃくの４～10 倍発生しています。単に食べ物だけではなく、「吸い込む」「すする」という食べ方にも問題があります。このように事故が起こった時に責任追及以上に環境の分析や習慣や文化も踏まえてアプローチする視点が現在の私たちには欠けています。

筆者がこれまでかかわってきた行政では、2011 年から外傷サーベィランスを本格的に実施しました。消防本部及び市内の外科・整形外科の７医療機関から無償でデータの提供を受け、年間約 1,800 人のデータ収集し、これまで 8000 件近い外傷データが蓄積されています。

- 交通事故の発生数は県と比べ市が多くなっている
- １日当たり５人が受傷し、平均 2.8％を上回る
- 一般受傷 1,153 人の分析によると、転倒が最も多く、乳幼児・高齢者の対策が必要
- 男性の自殺者が多い
- 自宅内での転倒について、昨年に比べ受傷者は減少したが、中等症の受傷者の割合が増えている

**外傷データの分析の公表：**関係機関へフィードバックするとともに、市民に対しても病院内にサーベィランス結果を展示し公表する

**課題：**データ収集の継続は医療機関の負担となっている。事故件数が少ないので、行動サーベィランスを検討する。

そのデータに基づき現状把握し対策が練られています。

上記はほんの一例ですが、外傷サーベィランスをすすめていくことで、これまで防ぎようがないと思われていた事故や事件への具体的な対策が可能になるのです。

## ６．おわりに

病院が行う外傷サーベィランスは、医師や看護師の負担を考慮して遅々として進まない傾向が否めませんが、電子カルテ化した項目を活かすことで、地域の外傷の実態が明らかになる可能性があり、産学官の連携の可能性もあると考えられます。

### 引用文献


１）石附弘：コミュニティを基盤としたセーフティプロモーション活動の展開 . 日本健康教育学会誌、Vol.18, No.4, p298-308.2010.

２）平成 25 年度（2013）人口動態調査統計：http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei13/

３）一般財団法人厚生労働統計協会：国民衛生の動向 Vol.60No.9, p425, 2013/2014.

４）広報まつばら：2014 年 11 月号　特集 . もう一度セーフコミュニティを考えてみる .

５）子どもの防犯に関する特別世論調査：平 成 18 年 8 月内閣府政府広報室 .2006　http://survey.gov-online.go.jp/tokubetu/tindex-all.html）

６）セーフコミュニティの認証を目指す鹿児島市：南日本新聞 . 平成 26 年 10 月 23 日 19 面 .

Title

# 積雪寒冷地の冬季都市景観イメージに関する北海道とラップランドの比較研究

8

Author

上田 裕文　札幌市立大学デザイン学部

Timo Jokela, Antti-Jussi Yliharju　University of Lapland, Faculty of Art & Design

## 背景と目的

積雪寒冷地の地域資源である雪文化に着目し、独自の発展を見せる北海道とフィンランド・ラップランドの比較研究を行った。地域や国によって異なる、雪や氷資源の文化的・地域的な意味合いを理解することで、雪や氷資源の持つ可能性を最大限に活用することが目的である。

雪や氷は積雪寒冷地における冬季の観光、北欧諸国における文化イベントやスポーツ環境の分野で重要な要素の位置を占める天然資源である。フィンランドは雪や氷デザインのノウハウ、技術、芸術と商業活用の面で幅広い専門知識を持っている。中でも、ラップランドでは、雪と氷の建築技術、冬のアートやイベントだけでなく、スキー場などのスポーツ施設の維持管理などに関する研究実践が盛んである。

一方、北海道も同様に積雪寒冷地に位置し、「さっぽろ雪まつり」に見られるような、フィンランドには無い雪資源活用の成功事例を持つ。

このように、地域や国によって異なる、雪や氷資源の文化的､地域的な意味合いを理解することによって、雪や氷資源の持つ可能性を最大限に活用できるようにすることが可能になると考えられる。

本共同研究は、ラップランド大学を中心とする、「Lapland Snow Design - Snow Expertise from Lapland as an Export Product -project（2011 − 14)」を基盤とする新たな研究プロジェクト「Culture of Snow as An Arctic Resource –Snow Design and Technology Innovations」の一部として、札幌市立大学とラップランド大学のデザイン学部に所属する研究者が協力して取り組む国際比較研究である。本共同研究では、その中でも特に、「雪文化の国際比較」に焦点を当てた調査の部分を担当した。

その具体的な目的は：

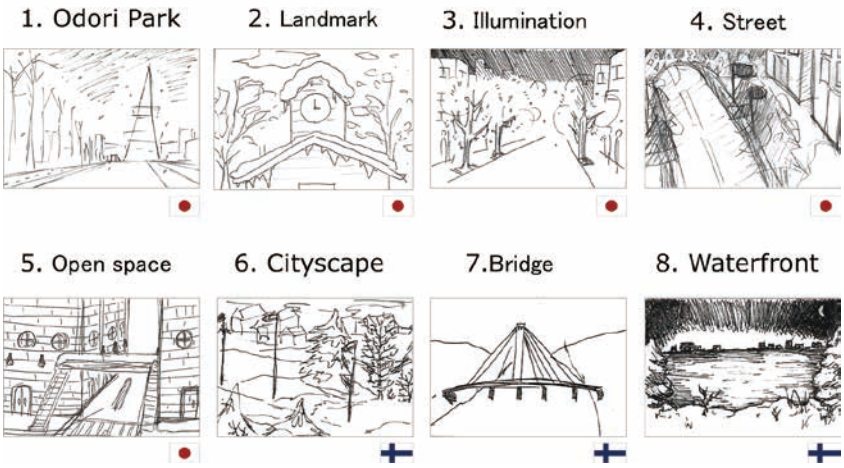
- 寒冷地文化における雪や氷の意味を理解し、環境－社会問題の解決にむけた雪デザインの可能性について研究する。
- 寒冷地における雪や氷のパブリックイメージを明らかにする（寒冷地研究や冬季観光、自然現象といったテーマを含む)。

以上のような研究プロジェクトの文脈から、本共同研究では、冬季観光を視野に入れた、各都市の雪景色に焦点を当てたパブリックイメージを明らかにすることを研究の目的とする。

現在、国際都市として外国人観光客を対象とするインバウンド観光の重要性が叫ばれる札幌市において、北欧諸国との国際的な比較研究は、札幌市の地域的な特徴を浮き彫りにし、雪資源の更なる活用につながる知見をもたらすと期待される。

## 先行研究

これまでの都市景観の研究は、夏季の景観を前提として調査が行われてきた。例えば、札幌市の住民の緑地意識に関しては､浅川による一連の研究蓄積がある。




図－1　「都市」に分類されたイメージスケッチの例

これらの先行研究によって、緑地の有する機能が、利用効果と存在効果による機能に大別され、年齢層によって重視する機能が異なることや、自然環境や緑地への関心と緑地の満足度の間に関連性があることなどが示されている。また、浅川らは、北海道の都市を対象に、都市スケールでのシンボライズされた景観について研究を通して、緑地の立地特性の分類を行ったり、札幌市における人々の景観認識に基づいた緑地の空間特性を明らかにしたりしている。

しかし、札幌市のような積雪寒冷地においては、冬季積雪時の雪景色を対象とした都市景観を対象とした研究蓄積が必要である。本研究は、日本で最も魅力的な都市とも言われる札幌市の、都市景観の評価に新たな角度からアプローチするという点に特徴がある。そこから、積雪寒冷地の都市デザインに関する有用な知見が得られる点が期待される。

## 研究方法

冬季積雪時の雪景色を対象とした都市景観のパブリックイメージを明らかにするため、北海道の札幌市と、ラップランド地方のロヴァニエミ市においてアンケート調査を実施した。都市の象徴的なシーンが、札幌では夏季（グリーンシーズン）で、ラップランドでは冬季（ホワイトシーズン）であることが予想されるが、本研究では冬季に絞ってパブリックイメージの抽出を行った。

文化的な比較を容易にするため、被験者の社会属性をある程度そろえる必要があることから、本研究の調査では、札幌市立大学とラップランド大学部のデザイン学部学生 100 名ずつを対象に調査を実施した。

調査手法としては、文化的な比較を、言語を超えて可能にするため、風景イメージスケッチ手法を用いた、描画調査を行った。風景イメージスケッチ手法は，人々が頭に思い描く風景イメージを一枚のシーンとして描画してもらう手法である。風景写真やシミュレーション画像を用いた評価実験と異なり，各自の風景の見方（距離感や視野角）を把握することが可能である。風景イメージスケッチ手法では、森林イメージの日本とドイツ、ロシアを対象とした国際比較研究の蓄積がある。また、対象とする自然環境に関しても、森林景観だけでなく、海岸景観、都市景観、観光地を対象とした研究蓄積がある。そのため、対象を雪景色の都市景観とした場合にも同様の調査が可能であると考えられた。さらに、描画の分析を深めるため、レパートリー・グリッド発展手法を応用した質問項目を組み合わせる。レパートリー・グリッド発展手法は，住環境評価を事例として開発された面接手法である。回答者の思考過程を追求する質問を繰り返し，上位の抽象的な概念から下位の具体的な条件までを，定性的な評価構造として抽出する手法である。今回の調査では，より多くの回答を得るため，面接方式ではなく，アンケート方式でイメージの階層構造を把握する質問項目を検討した。

## 結果

得られたイメージスケッチは、「都市」「自然」「日常生活」「イベント」の 4 カテゴリーに分類され、フィンランドでは「自然」が、日本では「日常生活」続いて「都市」が最も多く描かれていた。また、スケッチの描き方から、フィンランドの方が遠景で、日本では近景で風景が捉えられる特徴があることが明らかになった。

フィンランドでは、愛着が強い人ほど「都市」を描くのに対し、日本では「日常生活」を描く傾向も見られた。また視点については、愛着の強い人ほどフィンランドでは近景と遠景の両者のスケッチが増えるのに対し、日本では遠景のみが増えるといった傾向が見られた。愛着と居住年数には正の相関が見られた。

そこから得られた調査結果を元に、ラップランド大学と札幌市立大学の学生を対象としたワークショップを開催した。フォーカスグループインタビューを用いることで、これらの調査結果の違いが何に由来するのか、直接意見交換を通してそのパブリックイメージの特徴を明らかにすることができた。

ロヴァニエミと札幌では、約 2 万人と 200 万人という人口規模の違いから、都市の規模にも違いがあり、それが結果に表れていることがわかった。しかし、フィンランドと日本では、理想とする都市像には違いがあり、それらはそれぞれ自然志向、都市志向の生活スタイルと密接に結びついていることが明らかになった。

## 参考文献

1） 浅川昭一郎・鈴木幹雄・小林昭裕（1985）：北海道におけるシンボライズされた都市景観要素としての緑地：造園雑誌 48（5），270-275
2） 上田裕文（2009）：風景イメージスケッチ手法の構築に関する研究，都市計画論文集，44（3），37-42
3） 上田裕文、吉田恵介（2012）：観光のまなざしによりつくられる北海道の風景イメージの研究：ランドスケープ研究 75（5），pp529-532
4） 上田裕文・Christoph Rupprecht（2014）：札幌市の都市イメージにおけるみどりの位置づけとその利用：ランドスケープ研究 77（5），pp487-490

Title

# 寒冷地に暮らしてきた女性の尿失禁のリスク要因と対処行動に関する研究

9

Author

**原井 美佳**

**札幌市立大学看護学部**

## 【研究目的】

尿失禁は女性の生活の質に影響を与える一般的な健康問題のひとつである。これまで横断的な疫学研究がその有病率を 10~60% と報告してきたが、その経年変化についてのデータは限られている。そこで本研究においては、尿失禁の経年変化を把握し尿失禁の予防について考察することを目的として、2010 年から 2012 年に前期高齢者の女性を対象とした自記式質問紙調査を実施した。

## 【研究方法】

本研究は A 市の住民基本台帳より無作為抽出した前期高齢者（65 歳以上 74 歳以下）の女性 1600 人を対象として、2010 年 10 月、2011 年 10 月、および 2012 年 10 月に自記式質問紙を用いた郵送法調査を実施した。2010 年には 803 人から回答を得て（回答率 50.2%）、次いで 2011 年にはそのうち 746 人から回答を得た。さらに 3 回目の調査として 2012 年に 716 人から回答を得た。尿失禁の定義は、「少なくとも週に 1 回あるいはそれ以下の尿失禁」とした。本調査の自記式質問紙は、基本属性、嗜好品、健康状態、既往歴、現病歴、尿失禁症状、尿失禁の家族歴など 24 項目群の質問から構成した。解析ソフトは PASW® Statistics18（SPSS）を使用し、統計学的有意水準は 5% とした。尿失禁の経年変化については Mantel-Haenszel 検定を実施した。

ICIQ-SF (International Consultation on Incontinence -Questionnaire Short Form)
出典：穴澤貞夫編，排泄リハビリテーション，p207，2009 中山書店，東京）

問）どのくらいの頻度で尿がもれますか。
1. なし　　2. おおよそ 1 週間に 1 回、あるいはそれ以下
3. 1 週間に 2～3 回　　4. おおよそ 1 日に 1 回
5. 1 日に数回　　6. 常に

問）あなたはどのくらいの量の尿もれがあると思いますか。
（あてものを使う、使わないに関わらず、通常はどのくらいの尿もれがありますか。）
1. なし　2. 少量　3. 中等量　4. 多量

問）全体として、あなたの毎日の生活は尿もれのためにどのくらいそこなわれていますか。
0（まったくない）から 10（非常に）までの間の数字を選んで〇印を付けて下さい。

| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

まったくない　　非常に

問）どんな時に尿がもれますか。（あなたにあてはまるものに〇を付けて下さい。）
1. なし－尿もれはない
2. トイレにたどりつく前にもれる
3. せきやくしゃみをしたりした時にもれる
4. 眠っている間にもれる
5. 体を動かしている時や運動している時にもれる
6. 排尿を終えて服を着た時にもれる
7. 理由がわからずにもれる
8. 常にもれている

図1　自記式質問紙（一部抜粋）

**【研究結果】**

本調査の結果、2010 年の尿失禁の有病率は 30.3%、2011 年は 37.1%、2012 年は 42.2% であり、有病率の増加が認められた（p<0.001）。尿失禁の症状と生活の質についての質問票 ICIQ-SF において「生活の質が中程度に損なわれている」と回答した人の割合は、2010 年は 25.6%、2011 年は 30.4%、2012 年は 32.6% であり、尿失禁によって生活の質が損なわれている人が有意に増加した（p=0.009）。対象者の尿失禁に関連していた要因は、過去の最大体重、喫煙指数、健康状態、膀胱疾患の既往、痔疾患の既往、母の尿失禁の既往であった。

**【考察】**

同一の前期高齢者の女性を対象とした 3 年間の追跡調査によって尿失禁の有病率の経年変化が明らかになった。有病率の経年的な増加の主な理由として対象者の加齢があげられる。これまで加齢と尿失禁について、膀胱と骨盤底の構造の変化、尿路の生理学的、構造的変化、糖尿病、痔疾患の発症との関連が報告されている。

過去の最大体重が 60.0kg 以上であることは尿失禁のリスクを高めていたことから、腹圧や陰部神経の過度の圧迫を除くという意味において、体重コントロールは尿失禁のリスクを低減させるうえで重要である。喫煙者は非喫煙者よりも尿失禁の割合が高かった。これについては、習慣的な喫煙による激しい咳嗽、膀胱括約筋の緊張低下に起因する可能性が報告されている。本調査の喫煙指数に示されるように長期に及ぶ喫煙を尿失禁のリスクとして認識する必要がある。主観的健康感が低いことは尿失禁のリスク要因であった。尿失禁を有する女性には QOL と ADL の低下がみられるという報告から、主観的健康感が尿失禁と関連していることは妥当であると考える。痔疾患や膀胱疾患の既往も尿失禁と関連していた。膀胱疾患や痔疾患、子宮摘出、子宮脱に関連する外科的治療は、膀胱を支える構造体や骨盤神経叢への損傷を引き起こし骨盤底の減弱を介する尿失禁のリスク要因として報告されている。したがってこれらの疾患の予防と適切な治療が重要と考えられる。母親の尿失禁歴は尿失禁のリスク要因であった。遺伝的素因の詳細なメカニズムはまだ解明されていないが、尿失禁の発症に関連している可能性がある。

本研究の限界は、データが対象者の自己申告によるものであることと、選択バイアスの可能性があることにある。しかし、本研究の結果は、住民基本台帳から無作為に抽出された前期高齢者の女性の尿失禁についての追跡調査としての意義を有する。

**【結論】**

A 市の前期高齢者の女性の尿失禁の有病率は加齢とともに上昇していた。対象者の尿失禁に関連していた要因は、過去の最大体重、喫煙指数、健康状態、膀胱疾患の既往、痔疾患の既往、母の尿失禁の既往であった。

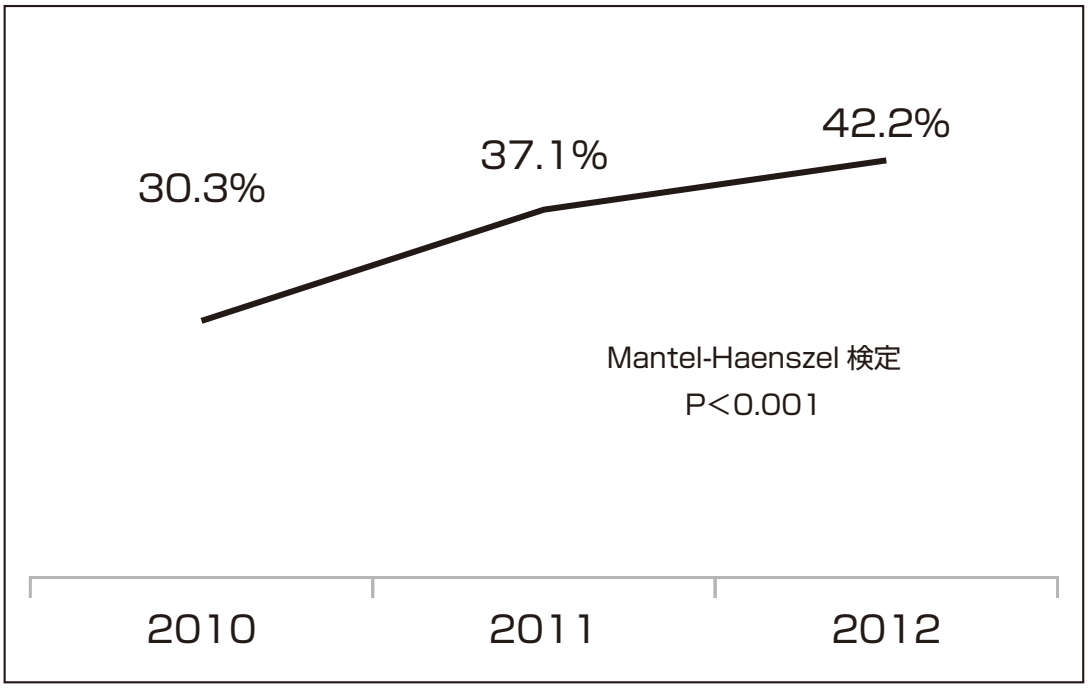



図２　A 市の前期高齢者の女性における尿失禁の有病率の経年変化

## ポスター・パネル展示発表

| No. | 学　部 | 職　名 | 氏　名 | 発表テーマ |
|---|---|---|---|---|
| 1 | デザイン | 教　授 | 細谷 多聞 | 遠隔現実を活用した移動体験を支援する機器の開発 |
| 2 | デザイン | 教　授 | 町田 佳世子 | 動物園の飼育体験における子どもの学び |
| 3 | デザイン | 准教授 | 張 浦華 | 短期型国際合同ワークショップの実施とその教育効果の検証 |
| 4 | デザイン | 助　教 | 須之内 元洋 | アートプロジェクトの成果検証におけるアーカイヴ手法実証実験 |
| 5 | 看　護 | 教　授 | 河原田 まり子 | 地域に住む人々のソーシャル・キャピタルの現状 |
| 6 | 看　護 | 教　授 | スーディ神崎 和代 | 高齢者の健康意識と健康管理用 ICT ツールへの入力負荷とのトレードオフ関係解明 |
| 7 | 看　護 | 准教授 | 菊地 ひろみ | サービス付き高齢者向け住宅入居者の状態把握に対する E-KANGO の有効性 |
| 8 | 看　護 | 准教授 | 村松 真澄 | のみこみ安心ネット札幌の立ち上げについて |
| 9 | 看　護 | 講　師 | 山内 まゆみ | 現職助産師の職業準備行動能力に関する調査報告 |
| 10 | 看　護 | 助　手 | 御厩 美登里 | 訪問看護師の職務継続意向に関連する要因<br>個人属性と働く喜びに焦点をあてて |
| 11 | 看　護 | 助　手 | 横川 亜希子 | 夕張市清水沢地区の炭鉱遺産をめぐるウォーキングマップ作成 |

# 2

## 展示会等の参加

1. ものづくりテクノフェア 2014
   （2014.7.24　アクセスサッポロ）

2. 環境広場さっぽろ 2014
   （2014.8.1 ～ 3　アクセスサッポロ）

3. けんこうフェスタ 2014 in ちゅうおう
   （2014.10.4　札幌市中央区民センター）

4. 第 28 回北海道技術・ビジネス交流会
   （2014.11.6 ～ 7　アクセスサッポロ）

# ものづくりテクノフェア 2014

1

2014.7.24　アクセスサッポロ

主催：北洋銀行

Title

## 遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発
## 小中学生を対象とした「メカトロ教室」の実施

Author

三谷 篤史
デザイン学部 講師

Image

Title

# 遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発

Author

三谷 篤史

SAPPORO CITY UNIVERSITY

## 遊び手の操作に応じて反応が変化するメカトロ積み木の開発

三谷研究室 ATSUSHI MITANI LAB.

知育的側面 **メカトロ玩具** × 感性的側面 **木**

**動産木材を用いる事で、従来のメカトロ玩具にない暖かみが生まれる。**
**メカトロニクスの導入で、積み木遊びに意外性や偶然性を演出できる**

本研究では、従来の積み木にメカトロニクスを組み込む切で、「木」の感性的効果を得つつ知育的側面を拡張した積み木玩具を開発する事を目的とする。
ここでは、積み木遊びの「積み上げる」「転がす」という動作に反応して、積み木から遊び手に対して働きかけを行うインタラクティブな玩具を開発する。
さらに、光と音の反応で、視覚的、聴覚的な刺激を与える事で、リハビリテーションの場面での活用の可能性も視野にいれ、研究を進めている。

Needs

- 玩具としての知育的効能
- 安心感 木の温もり
- メカトロニクスがもたらす玩具の新しい可能性
- ＋ リハビリでの活用

| 材料名 | 気乾比重 | 色 | 強度 |
|---|---|---|---|
| エゾマツ | 0.44 | 黄白色 | やや柔らかい |
| イタヤカエデ | 0.68 | 淡黄乳白色 | 硬い |
| タモ | 0.55 | 淡褐色 | 硬い |
| カバ | 0.66 | 淡黄白色 | 並 |
| ナラ | 0.71 | 黄褐色 | 硬い |
| セン | 0.48 | 淡灰褐色 | 並 |

## 各材料の特性を活かしたメカトロ積み木

同一形状およびサイズの積み木であっても使用する材料によって
色合い・重さ・木目による個性を持つ。

| 材料名 | 重量 g |
|---|---|
| エゾマツ | 56 |
| イタヤカエデ | 73 |
| タモ | 58 |
| カバ | 76 |
| ナラ | 89 |
| セン | 57 |

## 今後の展望

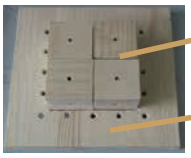
具体的なリハビリテーションを想定したツールへの発展

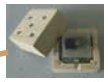
・メカトロ積み木を用いた視覚性記憶トレーニングツール

患者中心型リハビリ (Patient Centered Rehabilitation)

## リハビリテーションへの応用

はめ込みの要素を付加したメカトロ積み木





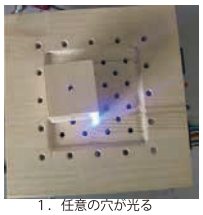
中央の穴でメカトロボードからの光を検出し，反応を示した後，4 隅 4 任意の穴が発光する

5 穴付きメカトロ積み木

任意の LED を発光させ，正しい位置にメカトロ積み木が置かれたかを判別し，周囲の LED を光らせることで正解を知らせる

メカトロボードシステム

アプリケーション例



1．任意の穴が光る

2．正しい位置に積み木が置かれると周囲の LED が点滅する

3．別の穴が光る

三谷篤史 Atsushi Mitani
札幌市立大学デザイン学部 講師
Department of Design
Sapporo City University
a.mitani@scu.ac.jp

松浦和代 Kazuyo Matsuura
札幌市立大学看護学部 教授
Graduate School of Nursing
Sapporo City University
k-matsuura@scu.ac.jp

謝辞：本研究の一部は
・2013 年度札幌市立大学競争的資金・共同研究費
・2013 年度ノーステック財団「福祉産業共同研究事業」
の補助を受けています．

Title　小中学生を対象とした「メカトロ教室」の実施

Author　三谷 篤史

SAPPORO CITY UNIVERSITY

# 小中学生を対象とした「メカトロ教室」の実施

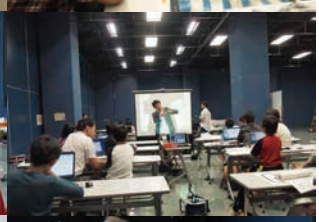
三谷研究室

ATSUSHI MITANI LAB.

文部科学省：平成23年度採択：「地域知の拠点整備事業」
ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業

## 「メカトロ教室」とは

ハンダ付け不要の電子回路キットやロボットキットを用いて，電子工作やプログラミングの実習を行います．次世代を担う子どもたちにメカトロニクス分野の楽しさを知ってもらい，将来この分野に進む技術者の育成を図ることが目的です．札幌市青少年科学館と梅澤無線電機株式会社札幌営業所の協力の元，2010 年度より毎年 1 回実施しています．2014 年度は文部科学省・地（知）の拠点整備事業（COC 事業）の一環として，札幌市立大学 COC「まちの教室」の共催行事として実施しました．



## 統計

教材をロボットキットに変更した 2013 年度から急激に応募者が増え，2013 年度は 80 件，2014 年度は 50 件と，それぞれ募集人数を大幅に超える応募数がありました．スーパーロングストレートコースと超難関曲線コースを用意した 2014 年度には，休み時間を返上して課題に取り組む者や，時間終了後もプログラミングに没頭し，上手く走らせようとする姿が見られました．アンケートでは，「楽しかった」「もっと長くやりたい」「何回も実施して欲しい」「二足歩行ロボットもやってみたい」などの肯定的な意見が多く寄せられました．

今後もこのような期待に添えるよう継続していきたいと思います．

| | 小学校中学年 | 小学校高学年 | 中学生 | 小計 | 保護者その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2010 | 14 | 4 | 3 | 21 | 17 | 38 |
| 2011 | 9 | 8 | 0 | 17 | 17 | 34 |
| 2012 | 21 | 12 | 3 | 36 | 34 | 70 |
| 2013 | 12 | 10 | 5 | 27 | 25 | 52 |
| 2014 | 8 | 15 | 5 | 28 | 23 | 51 |
| 合計 | 64 | 49 | 16 | 101 | 116 | 245 |

主催：(一社) 日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス部門　第 2 地区技術委員会
共催：札幌市立大学 COC「まちの教室」，札幌市青少年科学館，室蘭工業大学ロボットアリーナ，梅澤無線電機株式会社札幌営業所

# 環境広場さっぽろ 2014

2

2014.8.1 ～ 3　アクセスサッポロ

主催：環境広場さっぽろ 2014 実行委員会

［札幌市、（一財）札幌産業流通振興協会、北海道新聞社、日本工業新聞社北海道支局］

Title

## 映像で見る環境デザイン

Author


山田　良
デザイン学部 准教授

金子 晋也
デザイン学部 助教


Image

Title　映像で見る環境デザイン

Author　山田 良　金子 晋也

# SAPPORO CITY UNIVERSITY

山田 良 ／ RYO YAMADA STUDIO
金子 晋也／ KANEKO LAB

## 映像でみる環境デザイン

環境デザインは、建築やランドスケープといった従来の学問分野にとらわれず、風景や都市空間など私たち人間を取り巻く環境を、様々な文脈の中にある作品や行為を介して再解釈する、関係性のデザインということができるかもしれません。
この様な視点から、我々はこれまでに環境デザイン・環境芸術をテーマに製作・研究を行ってきました。今回の展示では、これまでに地域と連携して行ったアートプロジェクトや公共空間のデザインを、映像作品を通じて紹介します。

### RYO YAMADA STUDIO

小樽／北のウォール街アートプロジェクト 2013「和光荘」
北海道小樽市／ 2013 年

小樽に残る歴史建造物・和光荘に期間限定での空間芸術を施した。地域の資源ともいえる建造物の美しさや価値に再度光を当てる試み。

16th DOMANI・明日展 2013「Site Specific Room」
新国立美術館 東京都／ 2013 年

未来の家をテーマに展覧会が企画された。本作品は「1 日に 3 つの部屋・サイトスペシフィック・ルーム」を造るフィルム作品。場所の光、風、風景を感じ制作することが未来の家を考えることへと繋がるとした。

札幌芸術展アクアライン「海抜ゼロメートル／石狩低地帯」
札幌芸術の森美術館 札幌市／ 2013 年

水（アクア）をテーマとした展覧会への出展。札幌の都市が太古の昔海に覆われていたことをコンセプトに、約 100 万年まえの水面「海抜ゼロメートル」を空間で再現している。

### KANEKO LAB

Hokkaido-Sapporo Tourist Information Center
観光案内所の改修／札幌市／ 2014

「北海道さっぽろ観光案内所」という情報空間を、近年の情報の個別化（端末の小型化や SNS など情報提供方法の変化）への対応という枠組みから改修するプロジェクト。

HOJO Project
コミュニティ型教育プログラム／神戸市／ 2012-2013

「方丈の庵」を日本人の住まいの原形としてとらえ、鴨長明が示した環境デザインの思想を学び、現代の住まいのあり方を考えるコミュニティ型教育プログラムの提案。地域住民と大学が連携し、「方丈行灯祭」や現代版「方丈の庵」の企画・製作を行った。

# けんこうフェスタ 2014 in ちゅうおう

3

2014.10.4　札幌市中央区民センター

主催：けんこうフェスタ 2014 in ちゅうおう実行委員会

［札幌市中央区、（社）札幌市医師会中央区各支部等２１機関］

Title

## お口の健康を考えてみよう

Author


**村松 真澄**
看護学部 准教授

**藤井 瑞恵**
看護学部 講師

**地域ボランティア同好会「act」**
札幌市立大学 2、3 年生


Image

Title

# お口の健康を考えてみよう

Author

村松 真澄　藤井 瑞恵　加藤 萌　西田 有希　根塚 雪乃　村上 はるか　増川 美咲

高齢社会を迎え、予防という観点から自分の健康状態を自己管理することが大切である。最近、誤嚥性肺炎の予防や全身の健康との関連から、口腔の健康についても重要性が指摘されている。しかしながら、口腔内の客観的評価の指標が日本にはなかった。 そこでEILERS が開発したOral Assessment Guide (OAG)を本人に使用許諾を翻訳し、日本語版として使用した. 8項目(声, 嚥下, 口唇, 舌, 唾液, 粘膜, 歯周, 歯および義歯の汚れ)について, 健康であればスコアが1, 中間を2, 不健康は3と点数化され, 合計点数はすべての項目を足したものとした. これまでの調査結果から、疾病やADL、認知機能の低下で口腔内が不健康になることが明らかである。
本コーナーの目的は、市民が健康時から自らの口腔内を評価し、セルフケアへの動機づけや歯科の定期受診のきっかけになることである。ここでは、デザイン学部上遠野　敏教授のアートプロジェクト活動において看護学部学生の地域支援ボランティア同好会「act」が地域保健活動を実施している。その中でデザイン学部学生が作成した歯磨きカレンダーや健口体操も紹介する。 また、虚弱高齢者やがん治療の時などに必要になる粘膜ケアの方法を体験していただきたい。

## Eilers Oral Assessment Guide (OAG)　Eilers口腔アセスメントガイド

監修：東京医科大学病院 歯科口腔外科 主任教授 近津大地／札幌市立大学 看護学部 准教授 村松真澄

2011年6月作成

| 項目 | アセスメントの手段 | 診査方法 | 状態とスコア 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|
| 声 | ・聴く | ・患者と会話する | 正常 | 低い／かすれている | 会話が困難／痛みを伴う |
| 嚥下 | ・観察 | ・嚥下をしてもらう<br>咽頭反射テストのために舌圧子を舌の奥の方にやさしく強く押し下げる | 正常な嚥下 | 嚥下時に痛みがある／嚥下が困難 | 嚥下ができない |
| 口唇 | ・視診<br>・触診 | ・組織を観察し、触ってみる | 滑らかで、ピンク色で、潤いがある | 乾燥している／ひび割れている | 潰瘍がある／出血している |
| 舌 | ・視診<br>・触診 | ・組織に触り、状態を観察する | ピンク色で、潤いがあり、乳頭が明瞭 | 舌苔がある／乳頭が消失しテカリがある、発赤を伴うこともある | 水泡がある／ひび割れている |
| 唾液 | ・舌圧子 | ・舌圧子を口腔内に入れ、舌の中心部分と口腔底に触れる | 水っぽくサラサラしている | 粘性がある／ネバネバしている | 唾液が見られない（乾燥している） |
| 粘膜 | ・視診 | ・組織の状態を観察する | ピンク色で、潤いがある | 発赤がある／被膜に覆われている（白みがかっている）。潰瘍はない | 潰瘍があり、出血を伴うこともある |
| 歯肉 | ・視診<br>・舌圧子 | ・舌圧子や綿棒の先端でやさしく組織を押す | ピンク色で、スティップリングがある（ひきしまっている） | 浮腫があり、発赤を伴うこともある | 自然出血がある／押すと出血する |
| 歯と義歯 | ・視診 | ・歯の状態、または義歯の接触部分を観察する | 清潔で、残渣がない | 部分的に歯垢や残渣がある（歯がある場合、歯間など） | 歯肉辺縁や義歯接触部全体に歯垢や残渣がある |

Eilers J, Berger A, Petersen M. Development, testing, and application of the oral assessment guide. Oncol Nurs Forum 1988; 15(3): 325-330.を改変。June Eilers, RN, PhDから翻訳および発行の許可を取得しています。　＊「or」は、「／」で表現しています。

## 健口体操

### 口を開けてやってみよう

1 舌を前に出し左右に動かす
2 舌を上下に動かす
3 舌を右まわり、左まわりにぐるりとまわす
4 舌を右・左に動かす

### 口を閉じてやってみよう（唇の体操も一緒にやってみましょう）

～目をパチクリしながら行うともっと効果があります～

1 舌を上に
2 舌を下に
3 舌を右まわり、左まわりにぐるりとまわす
4 舌を右・左に動かす

[村松真澄：口腔ケアの基本．認知症高齢者の口腔ケアの理解のために（日本口腔ケア学会編）．東京：口腔保健協会；26、2011]

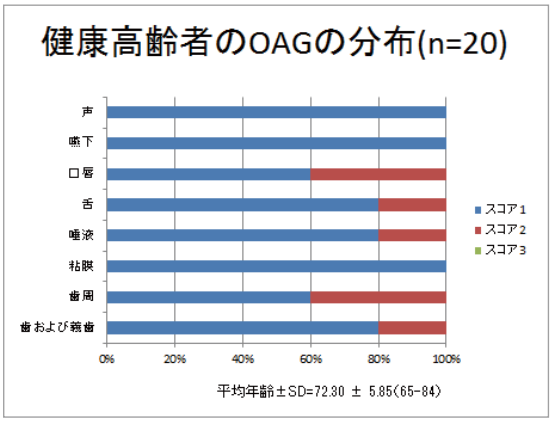
制作：札幌市立大学 デザイン学部4期生　江口亜衣里
企画：札幌市立大学 看護学部　村松真澄

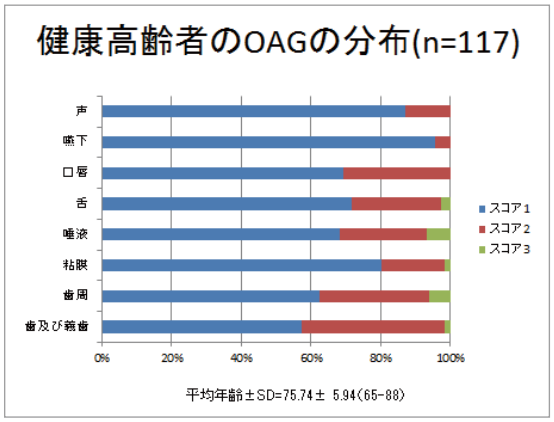
Title

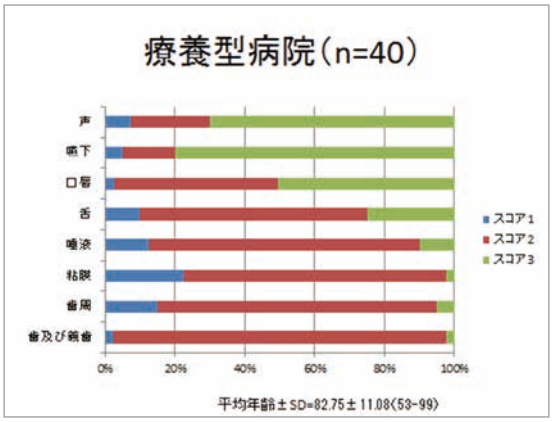
# お口の健康を考えてみよう

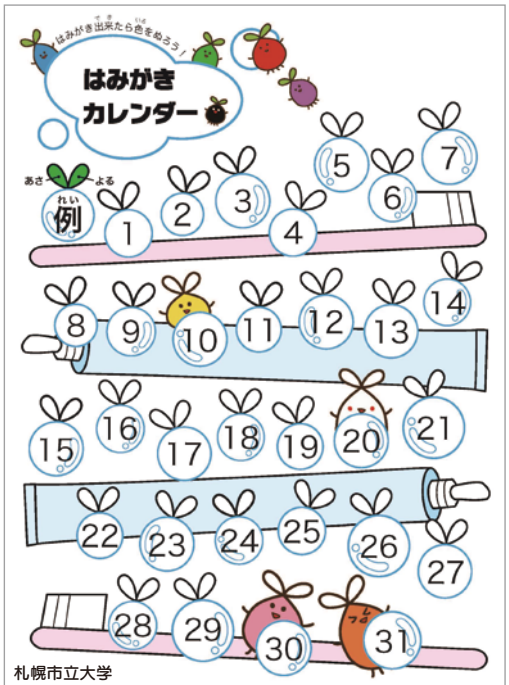
Author

村松 真澄　藤井 瑞恵　加藤 萌　西田 有希　根塚 雪乃　村上 はるか　増川 美咲




札幌市立大学
企画：村松真澄
デザイン：江口亜衣里（デザイン学部4期生）

札幌市立大学　企画：村松真澄　イラスト：平中麻美子（デザイン学部6期生）

参考文献
1）村松真澄：口腔アセスメントガイドの活用と実践、看護技術、Vol.58 No.1P12ー20、2012
2）赤沼正康、村松真澄、松原光代、松原秀樹、越智守生：療養型入院高齢者のOralAssessment Guide（OAG）と口腔内状況との関連、第25回日本老年歯科医学会（福岡市）平成26年6月13日発表
3）村松真澄，守屋信吾：地域自立高齢者のoralAssessment Guide(OAG)と口腔内の状況との関係、第25回日本老年歯科医学会（福岡市）平成26年6月13日発表
4）村松真澄，守屋信吾：高齢者の口腔評価へのOral Assessment Guide(OAG)の内容妥当性の検討、第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会、平成26年9月5日発表

## 第 28 回北海道技術・ビジネス交流会

4

2014.11.6 ～ 7　アクセスサッポロ

主催：北海道技術・ビジネス交流会実行委員会

［北海道経済産業局、北海道、札幌市、北海道経済連合会等 11 機関］

Title

# 地下鉄真駒内駅魅力アップ事業　～壁面アートによる個性的な駅空間創出～
# コンピュータグラフィクスを用いた仮想身体表現と数理造形表現
# アートプロジェクトの成果検証におけるアーカイヴ手法実証実験

Author


大渕 一博
デザイン学部 講師

松永 康佑
デザイン学部 講師

須之内 元洋
デザイン学部 助教


Image

Title　地下鉄真駒内駅魅力アップ事業　～壁面アートによる個性的な駅空間創出～

Author　大渕 一博

01

# 地下鉄真駒内駅魅力アップ事業

## ～壁面アートによる個性的な駅空間創出～

吉田和夫（デザイン学部 教授）、清水光子（看護学部 准教授）、大渕一博（デザイン学部 講師）
飯島美咲子、加藤羽留奈、栗原風花、児玉彩夏、今あやか、前川莉菜、柳田萌、山田妃美子、米澤ゆか、渡部由以（デザイン学部 3年）
市戸優人（看護学部 5期生）、冨澤みず稀（看護学部 4年）

### この取り組みについて

芸術・文化的施設の多い南区の玄関口である地下鉄真駒内駅をアートで装飾し、個性的な駅空間の創出を図ることによって、他の駅とは違った芸術的空間を利用者に楽しんでもらい、まちのにぎわいを生むきっかけとします。地域の住民と札幌市立大学の学生が協力して取り組むことにより、幅広い世代に愛される駅ナカアートを目指し、高齢化が進む南区において若い世代の活力を感じられる取組みとなることを目指します。なお、この事業は札幌市南区からの依頼で実施された。

### 地域住民とのワークショップ

平成25年9月に3回実施。南区の地域住民10名と札幌市立大学学生9名（看護2名・デザイン7名）が参加し、「南区」や「真駒内駅」のイメージについて、意見を出し合いました。
その中から、デザインキーワードを抽出し、真駒内駅ナカアートに求められる4つのヴィジョンが提案されました。

●キーワードの抽出過程

●ワークショップのようす

**デザイン キーワード**

- 住民のための駅づくり
- 誇り
- 帰ってきたらホッとする
- 愛着
- 環境に溶け込む
- 森の中から広がる
- 風景の窓
- 窓からの景色
- 緑
- 水・川
- 原始林
- 山
- 観光
- 地域の素材
- 歴史・文化
- 南区の玄関口
- 住んでいる人・訪れる人の玄関
- 南区を知るきっかけ
- 芸術祭へのゲート
- 地域資源を探す・見つける・知る
- 駅からはじまる物語
- 駅全体への意識

**真駒内駅のヴィジョン**

- 住民が誇れる駅
- 南区の豊かな自然を象徴する駅
- 地域資源の発信拠点となる駅
- 全体にストーリーがある駅

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

Title

# 地下鉄真駒内駅魅力アップ事業　～壁面アートによる個性的な駅空間創出～

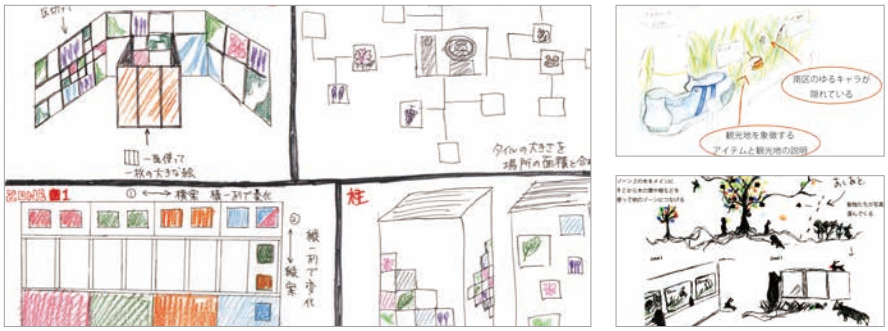
Author

大渕 一博

02

## デザイン制作

ワークショップで提案されたヴィジョンをもとに、札幌市立大学デザイン学部の学生がデザイン制作をすすめました。




●ラフスケッチ

約２ヶ月にわたり、学生どうしで意見交換したり、教員のアドバイスを受けながら表現を練り上げ、最終的に以下のようなデザインに決まりました（10 ヶ所のうちの３ヶ所分）。

●真駒内駅事務室横

●南改札口東壁面

●定期券売場前

## デザインコンセプト

**真駒内駅を象徴する木＝「集いの木」**

| 自 然 | 地 域 | 動 物 |
|---|---|---|
| ↓ | ↓ | ↓ |
| 木全体 | 葉っぱ | 木に集う |

ワークショップで提案された３つのキーワードである「自然」「地域」「動物」を表現するシンボルとして、「真駒内駅を象徴する木 ＝ 集いの木」を考えました。
木全体で「自然」、葉っぱで「地域」、そして「動物」は木に集う存在としてデザインしました。

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

Title

# 地下鉄真駒内駅魅力アップ事業　～壁面アートによる個性的な駅空間創出～

Author

大渕 一博

03

## 駅ナカアート完成披露セレモニー

平成 26 年 3 月 27 日、札幌市長、札幌市立大学学長、札幌市南区長を始め、ご来賓の方々をお招きし、南区民のみなさまに駅ナカアートをお披露目しました。
札幌市長と札幌市立大学の学生が協力して、デザインワークの最終仕上げ作業を行いました。また、学生からみなさまに対して、デザインコンセプトの説明が行われました。

●市長と学生によるデザインワークの仕上げ作業

●札幌市立大学の学生によるコンセプト説明

●券売機下部

●南改札口西側壁面

●定期券売場前壁面

●南改札口東側壁面

●定期券売場前柱

●《集いの木》ストーリー

## ワークショップ参加者への報告会

ワークショップから約 5 ヶ月を経て完成したデザイン案を、ワークショップ参加者に報告しました。

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

Title

# コンピュータグラフィクスを用いた仮想身体表現と数理造形表現

Author

松永 康佑

Title

# コンピュータグラフィクスを用いた仮想身体表現と数理造形表現

Author

松永 康佑

## レイヤー人体 新体操

## レイヤー人体 フィギュア

## レイヤー人体 水泳

### 多点モーションキャプチャ

400以上の計測点による全身計測

### 多人数参加型シルエットパズル Masstang

位置センサ(Mocap)を利用して、多人数で目的の図形を作るゲーム

### 仮想身体モデル

身体の形状や運動データを様々な角度から計測しコンピュータ上でリアルなCG身体を表現します

### アプサラダンス

カンボジアの伝統舞踊を計測しCGで再現

### 物理モデルによる人体胸部運動シミュレーション

Mass-Springモデルによる胸部物理モデルを構築しました

### 雪の結晶成長シミュレーション

セルオートマトン法により結晶化モデルを用いて結晶の成長過程を映像にしています。

### Hextomino

同色の三角形を６枚以上ならべて消す、対戦型のパズルゲームです。消す色によって６パターンの特殊効果があります。

### Talking Head

台湾建国百周年事業として孫文を再現

### 数理造形と立体出力

自己相似という特徴（フラクタル構造）をもつ野菜ロマネスコを数学的にとらえて立体出力した

### 遠い記憶

Mass-Springモデルによるクロスシミュレーション法を用いて制作した映像作品です。ばねの構造に特徴があります。

### COSMOS

リアルタイムグラフィックスによる三次元万華鏡作品

### 文化財アーカイブ

手で触れることのできない文化財などを非接触で形状計測し、CGとして表現したり立体出力する

### Million Dots

100万の粒子の移動による流れの表現。人間の動きに反応し、流れの場が変化が生じる。

### レイヤー人体

スポーツで特徴的な身体動作の一瞬を切り取り、CG上で何層ものレイヤーの集合体として表現した作品。全７作品。

札幌市立大学 デザイン学部 講師 松永康佑 研究室

〒005-0864札幌市南区芸術の森1丁目 Tel：011-592-5859 E-mail：k.matsunaga@scu.ac.jp

Title

# アートプロジェクトの成果検証におけるアーカイヴ手法実証実験

Author

須之内 元洋

## はじめに

同時代の地域コミュニティと深く連動し、個別の社会的事象と関わりながらボトムアップに展開するアートプロジェクトの長期的な成果（インパクト）について、活動主体が継続的に記録・評価・発信するための手法の開発が課題となっている。そうした手法の一つとして、デジタルアーカイヴを活用した、活動記録の整理・共有・活用が挙げられる。デジタルアーカイブの導入によって、様々な人々が関わるアートプロジェクトの散逸しがちな記録を一元管理することで、資料の検索や二次的な活用（広報、報告、プランニング）が可能になる。

日比野克彦氏監修のアートプロジェクト「明後日新聞文化事業部」をケーススタディとして、限られた現場の経済的・人的リソースで実現可能な、長期的なアートプロジェクトの記録を整理・共有・活用するための、実践的なデジタルアーカイヴ構築・運用手法の提案と検証を行った。

## ケーススタディ対象について

「明後日新聞文化事業部」は、「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2003」において、アーティスト日比野克彦を社主とし、新潟県東頸城郡松代町莇平（現在の十日町市莇平）の廃校に本社を据えて発足したアートプロジェクトである。トリエンナーレをきっかけとして、約 20 戸の集落の住民たちと朝顔を育てることから始まり、明後日新聞の発行、集落行事への参加、ワークショップの開催など、トリエンナーレの期間外にも継続的な活動が育まれてきた。2014 年は、明後日新聞社文化事業部設立 12 周年である。

※ 明後日新聞社文化事業部 http://asatte.jp/

## 明後日アーカイヴの概要

アーカイヴ構築の現場で想定される様々な課題の検証を行いながら、デジタルアーカイヴを構築した。

●目的：多様なアートプロジェクトで汎用的に活用可能なアーカイブ基盤活用法の提示
●特徴：記録資料をオンラインで体系的に共同管理・運用することができ、公開メディアを通じてアートプロジェクトを振り返ることができる
●対象：「明後日新聞社文化事業部」の 11 年分の記録写真約 3 万 5 千点と、過去に発刊された約 160 号分の明後日新聞のデータ
●デザイン：「明後日新聞社文化事業部」の特徴・性格を反映した公開メディア
●仕組み：システム完成後も逐次記録資料を追加でき、限られた経済的・人的リソースでも継続的にアーカイヴ運用が可能。次の2つのソフトウェアを組み合わせてシステムを構築した。
▶ デジタル資産管理システム（以下、DAM : Digital Assets Management system）「ResourceSpace」（図1左下）
▶ コンテンツ管理システム（以下、CMS : Contents Management System）「WordPress」（図1右下）

## 構築プロセス要点

### 1. 扱う資料・記録の確認・準備

資料・記録の種類、フォーマット、品質、件数をリストアップする。既に沢山の資料・記録の蓄積がある場合は、入手手段や現在の保管場所も明らかにしておく。新規プロジェクトの記録を一から始める場合には、想定できる範囲で資料・記録の種類、フォーマット、手法、頻度をリストアップし、運用チーム内で共有しておくと、計画的なアーカイヴ運用の助けになる。

### 2. メタデータの設計

沢山の資料や記録が、そのまま素の状態で保管されているだけでは、それらの検索、効率的な利用は困難である。必要十分なメタデータをリストアップし、デジタルアーカイヴのシステムで扱えるように設計を行う。「ミュージアム資料情報構造化モデル」や「Dublin Core Metadata Element Set」で提示されている記述項目、対象とするアートプロジェクトの性質を参照しつつ、以下の様な視点でリストアップを行う。

① プロジェクトの特徴、資料・記録の特性を表すのに必要なもの
時間・期間、場所、行事、プロジェクト固有のタグやカテゴリ、人物（例えば明後日聞の編集長）など
② 資料・記録の運用・管理に必要なもの
オリジナルのファイル名、著作権者のクレジット、公開非公開フラグ、資料・記録のシステム上の ID、取込・追加・更新の時刻など
③ デジタルアーカイヴの開発やセットアップに必要なもの
操作を行うユーザーの属性、資料・記録を一括処理するためのグループなど

図1 明後日アーカイヴ　システムダイアグラム

Title

# アートプロジェクトの成果検証におけるアーカイヴ手法実証実験

Author

須之内 元洋

3. 公開メディアの設計とデザイン

ResourceSpace（DAM）によるアーカイヴ資料の運用だけでも、資料の整理整頓や目的に応じて素早く資料を検索することが可能になる。また、WordPress 等の CMS を組み合わせることで、DAM の記録資料をアートプロジェクトのストーリーにのせ、ウェブの広大なメディア空間に発信し、SNS や検索エンジンを経由して閲覧者からフィードバックを得ることが、より小さな作業コストで可能になる。さらに一歩踏み込んで、アートプロジェクトのポートフォリオ制作、PR のためのメディア構築、関係者でアートプロジェクトを振り返り次の展開を考えるためのメディア構築など、明確な目的のもとで専用のユーザーインタフェースを備えたメディアを設計・デザインすることで、より積極的なデジタルアーカイヴ活用のあり方が見えてくる。デジタルアーカイヴを活用したメディアを構築し、その効果を実感したり、閲覧者からのフィードバックを得たりすることは、デジタルアーカイヴの運用を継続する大きな動機になる。公開メディアを設計・デザインする際には、デジタルメディアが得意とする次のような可能性を考慮する。

- メタデータを手がかりに、元来バラバラな記録・資料を空間的にモンタージュすることで、いままで知覚できなかったことが知覚できるようになる可能性
- ナラティブと記録・資料の自在な組み合わせや組み換えによって、より豊かな情報の生成が促される可能性
- 閲覧・利用者からのフィードバックによって、アーカイヴの記録が補完・充実化され、アートプロジェクトに対する理解が深まる可能性
- デジタルメディアが、オンラインにおける文化の配布・伝播のフォーマットであることをふまえて、時々の有効なオンラインメディア（Facebook など）と接続し、関心を共有できるコミュニティを生成する可能性

## ケーススタディにおける公開メディアのデザイン

過去 11 年分の記録写真、発刊された明後日新聞を時系列に閲覧でき（図 2）、行事毎のスライドショーを閲覧しながら（図 3）注釈（コメント、思い出、発見）を追加していくことができる。また、季節ごとに整理された行事の年表（図 4）を参照して任意の時点にジャンプできる仕組みや、記録写真に行事のデータをオーバーレイ表示して、アートプロジェクトの時間の積層の中で記録写真を閲覧できる仕組を備えた。アートプロジェクトの性格を反映し、莇平集落の毎年の行事サイクルや季節感を伝えること、記録資料の量感とともに 11 年間の活動の幅を伝える工夫を行った。

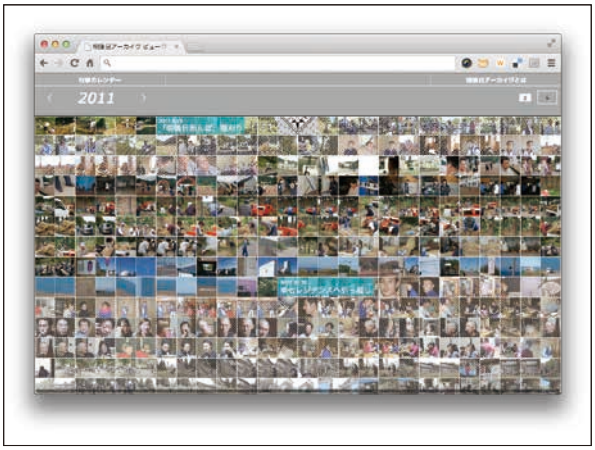



図2：《記録写真と明後日新聞のサムネイル一覧表示と、行事のオーバーレイ表示》
DAM に取り込んだ記録写真と明後日新聞のサムネイルが時系列に表示されます。また、CMS に記録済みの行事名と行事期間を表すハッチングが、サムネイル一覧にオーバーレイ表示されます。サムネイル一覧は上下にスクロールすることができるほか、画面左上の年表示を切り替えたり、図4の行事一覧にある行事名をクリックすることで、任意の時点にスクロールして記録を閲覧することができます。

図3：《行事ごとのスライドショーと注釈の仕組み》
任意の写真をクリックするとブラウザウィンドウの大きさに合わせてスライドショーが始まります。明後日新聞をクリックした場合には、十分な解像度の紙面画像を表示／ダウンロードすることができます。CMS に記録済みの行事期間に属する写真群については、スライドショーを閲覧しながら注釈（コメント、思い出、発見）を追記していくことができます。

Title

# アートプロジェクトの成果検証におけるアーカイヴ手法実証実験

Author

須之内 元洋

図 4：《季節ごとに整理された行事年表》
CMS に記録済みの行事を、季節別に年表形式で表示します。プロジェクト発足時から現在までのプロジェクトの活動概要を俯瞰することができます。特定の行事をクリックすると、図2のサムネイル一覧が、当該行事の時点にスクロールします。

## 公開のための権利処理

公開メディアを通じ、資料・記録を不特定多数の閲覧者にむけて公開する場合、原則、著作権保有者の確認と資料使用の許諾確認、肖像権に触れる可能性のある資料の公開同意が必要である。資料をDAMに取り込む際に、著作権保有者と使用許諾に関する項目をメタデータとして付与する運用を確立できれば最適である。また、アートプロジェクトの参加者に対しては、予め記録資料の公開可否を確認しておくことができれば、資料公開の度に関係者に確認をとる必要がない。しかしながら、いくら事前に公開許諾を得ていたとしても、特定の写真について、そこに写っている本人が公開拒否の意思を示した場合に、速やかに当該写真を非公開とできるような連絡窓口と体制をととのえ、そのことを分かりやすく明示しておくような配慮が必要である。特に、アートプロジェクトを継続するうえで、地域住民や参加者との信頼関係を保つためには、アーカイヴ運用の窓口を風通し良く開いておくことが重要である。

「明後日新聞社文化事業部」の場合、事前に肖像権の許諾は一切確認できていなかった。過去にプロジェクトに関わったすべての人に、3万5千点の記録写真を一点一点チェックして頂いて、アーカイヴ公開の許諾を得ることは、現実的にはほぼ不可能である。そこで、次のようなプロセスを経て公開を目指すこととした。

- 午後20時以降～早朝6時（イベント実施時間外）の時間帯に撮影された記録写真については、デフォルトで非公開扱いとし、問題無いと判断できたものから公開する
- 過去にアートプロジェクトの運用に関わった人、及び地域住民に連絡をとり、公開メディアを事前に確認できる方法を提示したうえで、自身が写っている特定の写真をいつでも非公開にできる事を条件に公開許諾を依頼する
- 莇平地域の住民に参加して頂いて、デジタルアーカイヴのお披露目会を実施し、公開許諾を得る
- 特定記録写真の非公開処理を受け付ける窓口、体制をととのえ、公開メディアのわかりやすい位置に明記する

※上記のプロセスは、対象が莇平というアクセスが困難な集落で撮影された写真であるという特殊事情を考慮し、写っているのは関係者やプロジェクトについて認識している人々で、撮影及び公開を黙認していると推測されるため、採用された。全てのアートプロジェクトのデジタルアーカイヴに適応されるわけではない。

## デジタルアーカイヴのメリット

わかりやすいメリットとして、デジタル化資料にメタデータを付与し、アーカイヴのシステムで体系的に運用することで、様々なやり方で簡単に資料の検索ができたり、並べ替えが出来たり、新たな視点でプロジェクトを振り返ることが出来ることなどが挙げられるが、これだけに限らない。

デジタルアーカイヴを導入する際には、持続可能な記録と整理の方法を体系化し関係者で共有することが必要になる。このことは、特にアートプロジェクトのように、地域の時間の流れとともに継続的に展開されるプロジェクトの場合、年をまたいだプロジェクトの成果を一貫性をもって記録するためには必要不可欠なことである。さらに、記録の担当者が途中で交代になった場合でも、同じ方法・体系で一貫性を持った記録を行うことが可能になる。

また今日では、プロジェクトに関する報告や情報発信のための、制作・流通フォーマットの多くがデジタルであるため、様々な記録資料をデジタル化して体系的に一元管理しておくことで、記録・整理・活用のプロセスを円滑に遂行できるようになる。

## まとめと展望

2003年に始動したアートプロジェクト「明後日新聞社文化事業部」をケーススタディとして、長期的なアートプロジェクトの記録を整理・共有・活用するための、実践的なデジタルアーカイヴの構築・運用手法を提案し、実証実験から得られた知見をまとめた。機能性、汎用性、運用の容易さ、コスト面において、アートプロジェクトを対象としたデジタルアーカイヴの有力な手法を提示できた。今後は、日本各地で行われている多様なアートプロジェクトにおいて、本提案に基づくデジタルアーカイヴ運用の実証実験を展開し、手法のブラッシュアップとノウハウの蓄積を継続する。

# 3

# 地域連携・地域貢献活動

1. 公開講座開催
2. 受託研究
3. 外部資金活用事業
4. 協力依頼
5. 地域貢献
6. 地域連携研究センターのご案内

# 1. 公開講座開催

## 1) 主催講座

| 講座名 | 月　日 | 演題名 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 訪問看護スキルアップ講座 2014<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／訪問看護師、訪問看護に関心がある看護師 | 5 月 31 日（土） | 在宅におけるがん療養者の緩和ケア<br>－ペインコントロールを中心に－ | 川村 三希子（看護学部教授）<br>佐藤 明美（札幌医科大学附属病院がん性疼痛看護認定看護師） |
| | 11 月 16 日（日） | 認知症ケア | スーディ神崎 和代（看護学部教授） |
| COC 事業・SCU まちの教室<br>国道 453 号線をグリーンカーテンでつなげようウェルカムロードプロジェクト 2014 キックオフ勉強会<br>会場／札幌市南区芸術の森まちづくりセンター<br>対象／一般市民 | 6 月 24 日（火） | 平成 25 年度の芸術の森地区での取り組みについて、グリーンカーテンによる涼房効果 | 齊藤 雅也（デザイン学部准教授） |
| 事前指示書について考える会<br>－自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために－<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／一般市民 | 6 月 14 日（土） | ～自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために～<br>事前指示書について考える会 | スーディ神崎 和代（看護学部教授） |
| | 2 月 1 日（日） | ～自分らしく生き、自分らしい最期を迎えるために～<br>事前指示書について考える会 | スーディ神崎 和代（看護学部教授） |
| COC 事業・SCU まちの教室<br>親子メカトロ教室「走れ！ロボットカー」<br>会場／保養センター駒岡<br>対象／ 2014 駒岡秋まつりの参加者 | 6 月 21 日 ( 土 ) | メカトロ講座・ロボットカーを走らせよう | 三谷 篤史（デザイン学部講師） |
| クリエイティブ･コーディング･スクール in さっぽろ<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／学外の専門職（デジタルメディアのデザイナー等）、関心のある市民 | 7 月 12 日（土） | Processing でクリエイティブコーディング入門 | 杉本 達應（デザイン学部講師） |
| | 7 月 26 日（土） | D3.js でデータビジュアライゼーション | 山田 興生（ソフトウエアエンジニア） |
| | 8 月 30 日（土） | Max/MSP で VJ パフォーマンス | 石田 勝也（デザイン学部講師） |
| | 9 月 13 日（土） | openFrameworks でアルゴリズミック表現 | 田所 淳（クリエイティブコーダー） |
| COC 事業・SCU まちの教室<br>メカトロ講座・ロボットカーを走らせよう<br>会場／札幌市青少年科学館　特別展示室<br>対象／札幌市内在住の小中学生およびその保護者、日本機械学会会員およびその子ども | 8 月 24 日（日） | 親子メカトロ教室<br>「走れ！ロボットカー」 | 三谷 篤史（デザイン学部講師） |
| 「気持ち良い体験」をしよう<br>～呼吸法・マッサージによる医療者のセルフケアのススメ～<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／看護師、看護教員、医療技術職 | 9 月 9 日（火） | 「気持ち良い体験」をしよう<br>～呼吸法・マッサージによる医療者のセルフケアのススメ～ | 大野 夏代（看護学部准教授）<br>山本 勝則（看護学部教授）<br>鶴木 恭子（天使大学講師）<br>山本 礼美子（看護師） |
| 市民と共につくる看護学教育<br>―看護教育における模擬患者参加型演習―<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／本学で模擬患者として活動することを希望する市民 | 9 月 11 日（木） | 市民と共につくる看護学教育<br>―看護教育における模擬患者参加型演習― | 樋之津 淳子（看護学部教授）ほか |
| COC 事業・SCU まちの教室<br>札幌芸術の森：紅葉の中の彫刻<br>会場／札幌芸術の森<br>対象／一般市民 | 10 月 19 日（日） | 札幌芸術の森：紅葉の中の彫刻 | 矢部 和夫（デザイン学部教授） |
| COC 事業・SCU まちの教室<br>看護学部のモンゴル支援<br>会場／南区民センター<br>対象／一般市民 | 10 月 29 日（水） | 札幌市立大学看護学部のモンゴル支援 | 松浦 和代（看護学部教授）<br>大野 夏代（看護学部准教授） |

| 講座名 | 月　日 | 演題名 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 江別市での情報交換会：<br>会場／江別市中央公民館<br>対象／看取りを経験した家族、在宅ケアに関わる専門職者、地域住民 | 11月1日（土） | 在宅での看取りを叶えるために<br>～市民・看取りを経験した家族・専門職の連携で～ | 内藤 貴文<br>（ないとうクリニック医師） |
| COC事業・SCUまちの教室<br>アメリカ小説の女性たち<br>会場／南区民センター<br>対象／一般市民 | 11月8日（土） | アメリカ文学と女性ーイントロダクション | 松井 美穂（デザイン学部講師） |
| | 11月29日（土） | ケイト・ショパン　『目覚め』（1899） | 松井 美穂（デザイン学部講師） |
| | 12月20日（土） | ゾラ・ニール・ハーストン　『彼らの目は神を見ていた』（1937） | 松井 美穂（デザイン学部講師） |
| | 1月10日（土） | カーソン・マッカラーズ　『悲しき酒場の唄』（1943） | 松井 美穂（デザイン学部講師） |
| | 1月31日（土） | シルヴィア・プラス　『ベル・ジャー』（1963） | 松井 美穂（デザイン学部講師） |
| COC事業・SCUまちの教室<br>真駒内のまちづくりを考える<br>―ヨーロッパの先進事例を通して―<br>会場／南区民センター<br>対象／一般市民 | 2月13日（金） | 真駒内のまちづくりを考える<br>―ヨーロッパの先進事例を通して― | 杉本 達應（デザイン学部講師）<br>籔谷 祐介（COC特任助教） |

## 2) 共催講座：「さっぽろ市民カレッジ」連携講座

| 講座名 | 月　日 | 演題名 | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 札幌の文化財建築探訪〈夏〉<br>～豊平館の探検～<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／一般市民 | 7月22日（火） | 札幌の文化財建築を知ろう | 羽深 久夫（デザイン学部教授）<br>松本 優<br>（公益財団法人文化財建造物保存技術協会技術主任） |
| 札幌の文化財建築探訪〈夏〉<br>～豊平館の探検～<br>会場／豊平館<br>対象／一般市民 | 7月29日（火） | 耐震補強中の豊平館 | 羽深 久夫（デザイン学部教授）<br>松本 優<br>（公益財団法人文化財建造物保存技術協会技術主任） |
| 札幌の文化財建造物探訪〈秋〉<br>～豊平館の修理と活用工事～<br>会場／豊平館<br>対象／一般市民 | 11月4日（火） | 耐震補強工事中の豊平館を見てみよう。 | 羽深 久夫（デザイン学部教授）<br>松本 優<br>（公益財団法人文化財建造物保存技術協会技術主任） |
| 札幌の文化財建造物探訪〈秋〉<br>～豊平館の修理と活用工事～<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／一般市民 | 11月11日（火） | 文化財建造物の世界を知ろう | 羽深 久夫（デザイン学部教授）<br>松本 優<br>（公益財団法人文化財建造物保存技術協会技術主任） |
| 札幌の文化財建造物探訪〈冬〉<br>～時計台と豊平館附属棟の計画<br>会場／時計台<br>対象／一般市民 | 2月24日（火） | 耐震補強工事中の豊平館を見てみよう。 | 羽深 久夫（デザイン学部教授）<br>松本 優<br>（公益財団法人文化財建造物保存技術協会技術主任） |
| 札幌の文化財建造物探訪〈冬〉<br>～時計台と豊平館附属棟の計画<br>会場／サテライトキャンパス<br>対象／一般市民 | 3月3日（火） | 文化財建造物の世界を知ろう | 羽深 久夫（デザイン学部教授）<br>松本 優<br>（公益財団法人文化財建造物保存技術協会技術主任） |

## 2. 受託研究

| No. | 研究名称 | 委託者 | 期　間 | 研究代表者 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築<br>知覚中心ヒューマンインターフェースの開発<br>視覚特性の計測と評価 | 独立行政法人<br>科学技術振興機構 | 2014 年 4 月 1 日<br>～ 2015 年 3 月 31 日 | 石井 雅博<br>（デザイン学部教授） |
| 2 | 地域力向上を支援するまちづくり研究事業 | 寿都町 | 2014 年 4 月 17 日<br>～ 2015 年 3 月 25 日 | 上田 裕文<br>（デザイン学部講師） |
| 3 | 都市緑化空間の可能性に関する研究 | 札幌市環境局 | 2014 年 4 月 21 日<br>～ 2014 年 9 月 30 日 | 吉田 惠介<br>（デザイン学部教授） |
| 4 | 温熱環境・エネルギーマネジメントに配慮した<br>在宅医療拠点のデザイン研究 | 医療法人社団<br>オレンジ | 2014 年 6 月 9 日<br>～ 2015 年 3 月 31 日 | 斉藤 雅也<br>（デザイン学部准教授） |
| 5 | 芸術文化導入によるまちづくりに関する研究 | 美瑛町 | 2014 年 6 月 13 日<br>～ 2015 年 2 月 27 日 | 武邑 光裕<br>（デザイン学部教授） |
| 6 | 大規模複合商業施設を拠点とする地域住民・テナント事業者向け省エネルギー行動の普及に関する研究 | 株式会社札幌副都心開発公社 | 2014 年 6 月 20 日<br>～ 2015 年 2 月 28 日 | 斉藤 雅也<br>（デザイン学部准教授） |
| 7 | 北海道の風土と文化にちなんだ色の選定と<br>言葉の生成に関する研究<br>－北海道ココロカラープロジェクト－ | 株式会社マーケティング・コミュニケーション・エルグ | 2014 年 7 月 29 日<br>～ 2015 年 3 月 31 日 | 福田 大年<br>（デザイン学部講師） |
| 8 | 子どもの能動的参加を促す遊びの<br>屋内・屋外への展開方法を構築するための基礎研究 | 札幌市市長政策室 | 2014 年 7 月 29 日<br>～ 2015 年 3 月 13 日 | 福田 大年<br>（デザイン学部講師） |
| 9 | 創成東地区が持つものづくりの歴史を活かした<br>まちづくりの手法開発 | 札幌市市長政策室 | 2014 年 9 月 12 日<br>～ 2015 年 3 月 13 日 | 中原　宏<br>（デザイン学部教授） |
| 10 | ユニバーサルデザイン視点からの動物園のサイン計画研究<br>－地下鉄円山公園駅からのアプローチ誘導サイン－ | 札幌市<br>（円山動物園） | 2014 年 9 月 2 日<br>～ 2015 年 2 月 28 日 | 吉田 和夫<br>（デザイン学部教授） |
| 11 | ホッキョクグマ・アザラシ館（仮称）のデザイン研究 | 札幌市<br>（円山動物園） | 2014 年 9 月 2 日<br>～ 2015 年 2 月 28 日 | 斉藤 雅也<br>（デザイン学部准教授） |
| 12 | アフリカゾーンの飼育展示・サイン計画のデザイン監修 | 札幌市<br>（円山動物園） | 2014 年 9 月 2 日<br>～ 2015 年 2 月 28 日 | 福田 大年<br>（デザイン学部講師） |
| 13 | 円山動物園の森ビオトープの生物多様性向上のための研究 | 札幌市<br>（円山動物園） | 2014 年 9 月 2 日<br>～ 2015 年 2 月 28 日 | 矢部 和夫<br>（デザイン学部教授） |
| 14 | 「平成 26 年度札幌市自殺未遂者実態調査」調査研究 | 札幌市障がい保健福祉部 | 2014 年 9 月 22 日<br>～ 2015 年 3 月 27 日 | 守村　洋<br>（看護学部准教授） |
| 15 | 「オリジナルロゴマークのデザイン研究」 | 美瑛町 | 2014 年 12 月 1 日<br>～ 2015 年 2 月 25 日 | 武邑 光裕<br>（デザイン学部教授） |

※ 2015.3.31 現在の職名で掲載

## 3. 外部資金活用事業

| No. | 事業担当者 | | 事　業　名 |
|---|---|---|---|
| | 職　名 | 氏　名 | |
| 1 | デザイン学部教授 | 上遠野 敏 | 文化庁：平成 26 年度文化芸術振興費補助金（大学を活用した文化芸術推進事業）<br>「空知旧産炭地域における「炭鉱（やま）の記憶」をキーワードにした地域再生のためのアートマネジメント人材育成事業」 |
| 2 | デザイン学部教授 | 中原 宏 | 文部科学省：平成 25 年度採択：「地（知）の拠点整備事業」<br>「ウェルネス×協奏型地域社会の担い手育成「学び舎」事業」 |
| 3 | 副学長 | 中村 恵子 | 文部科学省：平成 24 ～ 26 年度　産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業<br>「産官学連携による地域・社会の未来を拓く人材の育成」 |
| 4 | 副学長 | 中村 恵子 | 文部科学省：平成 26 年度　産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業<br>【テーマ B】インターンシップ等の取組拡大<br>「循環型地域人材育成プラットホーム［若者が育つ大地：北海道］」<br>連携大学：小樽商科大学、旭川大学、北翔大学、千歳科学技術大学 |

# 4. 協力依頼

## 4.1 協力依頼一覧

| No. | 依頼内容 | 依頼元 | 対　応 |
|---|---|---|---|
| 1 | 琴似再開発地区自動販売機デザイン募集事業 | 琴似副都心株式会社 | 柿山 浩一朗（デザイン学部准教授） |
| 2 | びらとり温泉ゆから看板デザイン | 平取町役場 | 上田 裕文（デザイン学部講師） |
| 3 | 2017 冬季アジア札幌大会ポスターデザイン制作 | 公益財団法人 第 8 回札幌アジア冬季競技大会組織委員会 | 吉田 和夫（デザイン学部教授） |
| 4 | 地下鉄真駒内駅魅力アップ事業（真駒内駅ナカアート） | 札幌市南区 | 吉田 和夫（デザイン学部教授）<br>大渕 一博（デザイン学部講師） |
| 5 | 環境保全及び環境活動推進事業　グリーンカーテン普及プロジェクト | 芸術の森地区連合会 | 斉藤 雅也（デザイン学部准教授） |
| 6 | じゃらん×西胆振×大学生による若者の旅行需要創出事業 | 株式会社リクルート北海道じゃらん | 上田 裕文（デザイン学部講師） |
| 7 | クレピアパウダーのロゴおよびパンフレットの作成事業 | 寿産業株式会社 | 三谷 篤史（デザイン学部講師） |
| 8 | 大学院講義を活用した地域住民への省 $CO_2$ 普及啓蒙活動の推進 | 株式会社札幌副都心開発公社 | 斉藤 雅也（デザイン学部准教授） |
| 9 | 札幌市アイヌアートモニュメント設置事業 | 札幌市市民まちづくり局 | 金子 晋也（デザイン学部助教） |
| 10 | トレンナーレにふれるアートな夏休み | 芸術の森地区連合会 | 羽深 久夫（デザイン学部教授） |
| 11 | 札幌市中央消防署モザイクアート 2014<br>「守り続けるために」 | 札幌市中央消防署 | 吉田 和夫（デザイン学部教授）<br>大渕 一博（デザイン学部講師）<br>松永 康佑（デザイン学部講師） |
| 12 | Connekid! in そらのガーデン「しゃぼん玉とんだ！」 | 札幌駅総合開発株式会社 | 小宮 加容子（デザイン学部講師）<br>福田 大年（デザイン学部講師） |
| 13 | ものづくり「なでしこ」応援プロジェクト | 北海道 | 細谷 多聞（デザイン学部教授） |
| 14 | リサイクル・アート家具の制作 | 札幌市環境局 | 大渕 一博（デザイン学部講師） |
| 15 | さっぽろ水道フェスタ 2014 | 公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会 | 須之内 元洋（デザイン学部助教） |
| 16 | 奥洞爺牛及び奥洞爺のロゴマーク制作<br>壮瞥町の地域資源 PR のための情報発信アイテムの提案 | 壮瞥町商工会 | 石井 雅博（デザイン学部教授）<br>城間 祥之（デザイン学部教授）<br>細谷 多聞（デザイン学部教授）<br>大渕 一博（デザイン学部講師）<br>福田 大年（デザイン学部講師）<br>松永 康佑（デザイン学部講師） |
| 17 | 丘のまちびえいセンチュリーライド開催事業 | 特定非営利活動法人美瑛エコスポーツ実践会 | 武邑 光裕（デザイン学部教授） |
| 18 | 札幌市グリーティングカード作成事業 | 札幌市総務局 | 大渕 一博（デザイン学部講師） |
| 19 | かかりつけ医普及啓発事業 | 札幌市保健福祉局 | 吉田 和夫（デザイン学部教授） |
| 20 | 第 5 回ミニ大通お散歩まつり | ミニ大通お散歩まつり実行委員会 | 村松 真澄（看護学部准教授） |
| 21 | レコードでつながる世代間交流プロジェクト「RECO」における制作物協力 | NPO 法人 ezorock | 須之内 元洋（デザイン学部助教） |
| 22 | 丘のまちびえい宮様国際スキーマラソン大会開催事業 | 宮様国際スキーマラソン組織委員会 | 武邑 光裕（デザイン学部教授） |
| 23 | 札幌市子ども未来局「絵本の読み聞かせ推進事業」イベント | 札幌市子ども未来局 | 小宮 加容子（デザイン学部講師）<br>福田 大年（デザイン学部講師） |
| 24 | 新千歳空港ターミナルビル国内線 3 階壁面デザイン制作 | 株式会社 えんれいしゃ | 福田 大年（デザイン学部講師） |

| No. | 依頼内容 | 依頼元 | 対　応 |
|---|---|---|---|
| 25 | 大倉山ジャンプ競技場着ぐるみデザイン募集 | 株式会社札幌振興公社 | 上遠野 敏（デザイン学部教授） |
| 26 | 保養センター駒岡　PR イメージ検討業務 | 札幌市 | 吉田 和夫（デザイン学部教授） |
| 27 | 「CASBEE 札幌」の環境性能表示ラベルの作成 | 札幌市 | 吉田 和夫（デザイン学部教授） |
| 28 | 定山渓温泉観光魅力アップ構想におけるゲート装置の提案 | 一般社団法人定山渓観光協会 | 羽深 久夫（デザイン学部教授） |
| 29 | 自転車押し歩き推進事業 | 札幌市市民まちづくり局 | 吉田 和夫（デザイン学部教授） |
| 30 | 第 20 回芸術の森地区文化祭 | 芸術の森地区連合会 | 羽深 久夫（デザイン学部教授） |
| 31 | 「北海道博物館」のロゴマーク作成事業 | 北海道開拓記念館 | 武田 亘明（デザイン学部准教授） |
| 32 | 真駒内駅前花いっぱい事業 | 札幌市南区 | 吉田 惠介（デザイン学部教授） |
| 33 | 特別養護老人ホーム「セボラ・コリーナ」のロゴデザイン | 社会福祉法人 愛和福祉会 | 大渕 一博（デザイン学部講師） |
| 34 | 第 18 回統一地方選挙に係る啓発 CM | 札幌市選挙管理委員会 | 石田 勝也（デザイン学部講師） |
| 35 | 北海道じゃらん× nittan 地域戦略会議×大学生による　若者の旅行需要創出事業「旅プロデュース部」のロゴ作成 | 株式会社リクルート<br>北海道じゃらん | 上田 裕文（デザイン学部講師） |

※ 2015.3.31 現在の職名で掲載

## 4.2 協力依頼事例

### No.1　琴似再開発地区自動販売機デザイン

琴似駅周辺は空中歩廊で繋がれたコミュニテイ都市として再開発されており、そこに設置されている自動販売機のデザインを 4 名の学生（デザイン学部 4 年生）が担当しました。

### No.3 「2017 冬季アジア札幌大会」ポスターのデザイン

2017 年 2 月に、札幌市と帯広市を舞台に第 8 回冬季アジア大会が開催されます。この大会のポスターに、秋田胡桃さん（デザイン学部メディアデザインコース 4 年）の作品が採用されました。アジア圏から多くの国と地域が参加して催される賑わい、華やかさ、競技種目の多彩さを表現しました。

## No.11 「札幌市中央消防署モザイクアート 2014」の製作

札幌国際芸術祭 2014 の「創造都市さっぽろ推進プログラム事業」の一環として、本学の教員 3 名が技術的・デザイン的な協力を行いました。昭和 2 年に竣工した「札幌消防署」の貴重な写真をベースとした、幅 1.5m ×高さ 2.2m のフォトモザイク制作が製作され、さっぽろ地下街オーロラタウンにて一般公開されました。

## No.16 奥洞爺牛及び奥洞爺のロゴマーク制作

壮瞥町商工会奥洞爺委員会が実施している事業における「奥洞爺牛」及び「奥洞爺」のロゴマークの作成を、本学の学生らを主体として奥洞爺地域の視察や地域住民を交えたワークショップを経て行い、奥洞爺ロゴは沼田香織さんと平中麻美子さんの共作が，奥洞爺牛ロゴは平中麻美子さんの作品が選ばれました。（登録商標申請中）

## No.18 「札幌市グリーティングカード」デザイン製作

毎年末に札幌市の PR を兼ねて制作される「札幌市グリーティングカード」の制作にデザイン学部コンテンツコースの学生 21 名が参加し、継田彩乃さん（デザイン学部コンテンツコース 2 年）の作品が採用され、札幌市長名で 12 月 11 日に世界 152 カ国に向けて 328 通発送されました。

## No.20 「ミニ大通りお散歩まつり」に看護学部の学生・教員が企画参加

ミニ大通 ( 札幌市中央区 ) 界隈全体を会場に、そぞろ歩きを楽しみつつ、地域の魅力を再発見しながら、秋の 1 日を一緒に楽しむお祭りに、看護学部の学生と教員が医療セミナーの企画運営、ちびっこゾーンにて紙芝居、読み聞かせ等に参加しました。

### No.24　新千歳空港ターミナルビルの壁面デザイン制作

新千歳空港ターミナルビル国内線３階レストランゾーンの南側にある約10mの壁面に、食をテーマとしたグラフィクスを、コンテンツデザインコース４年生山野井早紀さんが制作し、平成27年１月30日から約１年間設置される予定です。

### No.25　大倉山ジャンプ競技場着ぐるみデザイン

大倉山ジャンプ競技場施設ＰＲのための着ぐるみデザインを本学学生に呼びかけて募集し、山崎美咲さん（大学院１年コンテンツ・メディア分野）の作品に決定し、本年５月に着ぐるみ完成しました。

### No.31　「北海道博物館」のロゴマークの制作

北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM

北海道の自然･歴史･文化を紹介する「北海道博物館（愛称：森のちゃれんが）」のロゴマークをデザイン学部 武田亘明准教授ゼミの学生９名のチーム（板山果織、熊谷奈織、高橋由衣、福田由季、松田沙織、松谷萌、山本美優、渡辺智美、佐藤里映）により作成し、愛称の「森のちゃれんが」にちなみ、博物館の建物をモチーフとしたれんが色に統一したデザインが選ばれました。

## 5. 地域貢献

### 5.1 地域貢献

| No. | 依頼内容 | 主催者 | 対　応 |
|---|---|---|---|
| 1 | 三吉神社例大祭 | 三吉神社 | 上遠野 敏（デザイン学部教授）<br>デザイン学部学生　10名 |
| 2 | 札幌国際芸術祭2014連携事業<br>《7×10　アート＆デザインの学生選抜展》 | 札幌市立大学 | 札幌市立大学地域連携研究センター |
| 3 | 北広島市消防署研修会<br>『災害現場におけるトリアージ』 | 北広島市消防署 | 太田 晴美（看護学部講師）<br>看護学部学生　6名 |
| 4 | 「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」の関連事業<br>　歯輝歯輝（はきはき）　～お口から健康に～ | 三笠市幾春別町 | 村松 真澄（看護学部准教授）<br>看護学部学生　6名 |
| 5 | 総合病院の災害訓練 | 苫小牧市　王子総合病院 | 太田 晴美（看護学部講師）<br>看護学部学生・OB　9名 |
| 6 | 雪あかりの祭典 ARUTOU2015 | 札幌市立大学<br>芸術の森キャンパス | 札幌市立大学<br>「雪あかりの祭典」実行委員会 |

## 5.2 地域貢献事例

### No.1 「三吉神社例大祭」

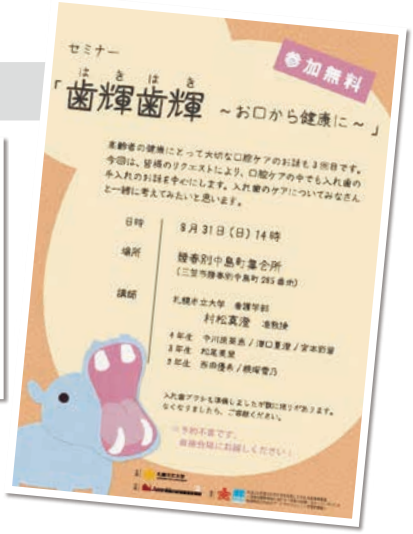
「さんきちさん」として地域の人に親しまれている三吉神社（札幌市中央区）の毎年5月14日と15日に開かれる例大祭に参加し、キャラクターグッズのデザイン協力、会場で冊子やクーポン、キャラクターグッズの配布、会場の清掃等、地域の方々と触れ合いました。

### No.2 札幌国際芸術祭2014連携事業《7 × 10：アート＆デザインの学生選抜展》

各国の学生たちが「都市」や「自然」の中で学び、生活する過程で獲得してきた視点や観点を紹介する機会として、各大学から選抜された学生作品展を7月22日～9月18日　札幌市立大学芸術の森キャンパスにて開催しました。

参加大学：　清華大学美術学院、華梵大学、ラップランド大学、雲林科学技術大学、又松大学、はこだて未来大学、札幌市立大学

### No.4 「歯輝歯輝（はきはき）～お口から健康に～」




2014年8月31日、三笠市幾春別中島町集会所において、地域交流ボランティア同好会「act」の6名と看護学部村松准教授が、「歯輝歯輝（はきはき）～お口から健康に～」というテーマで、地域の方々に口腔ケアに関するセミナー開催しました。

入れ歯の手入れのお話や実際に歯ブラシで歯を磨いたり、参加者の悩みを聞いたりしながら、一緒にお口のケアについて考えました。

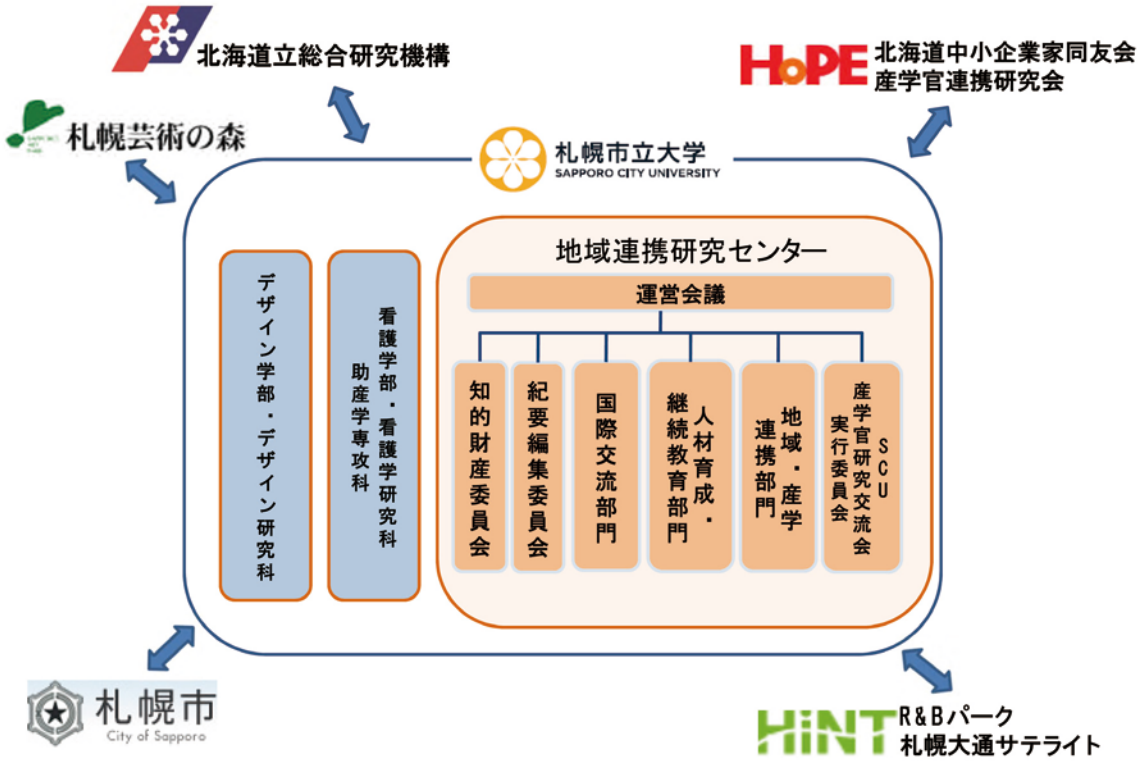
＊セミナー「歯輝歯輝～お口から健康に～」は、「そらち炭鉱の記憶アートプロジェクト」の関連事業です

## 6. 地域連携研究センターのご案内

地域連携研究センターは、平成19年4月本学における研究活動、地域貢献及び国内外のネットワークの形成推進を図ることを目的に設置されました。センターでは以下の業務を担当しています。

1）研究費、研究成果の公表等研究活動の推進に関する事項
2）共同研究・受託研究、研究に係る寄附金等外部資金に関する事項
3）知的財産に関する事項
4）市民講座等地域貢献に関する事項
5）サテライトキャンパスの活用に関する事項
6）産学官連携に関する事項
7）国際交流その他の国内外のネットワークに関する事項

地域連携研究センターは設置者である札幌市との連携のほか、「札幌芸術の森」ならびに「北海道立総合研究機構」と連携協定を締結し、さらに北海道中小企業家同友会産学連携研究会（HoPE）やR&Bパーク札幌大通りサテライト（HiNT）運営協議会に参加をして産学官連携・地域連携に取り組んでいます。



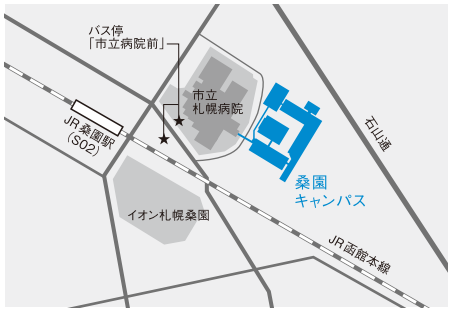
# SCU産学官連携相談窓口

地域連携研究センターでは、産学官連携・地域連携にさらに積極的に取り組むため「SCU産学連携相談窓口」を開設しています。こんな時、ぜひお気軽にご相談下さい。

研究・活動の内容を知りたい／札幌市立大学との連携方法について知りたい
教員を紹介してほしい／公開講座等の行事等について知りたい　など…

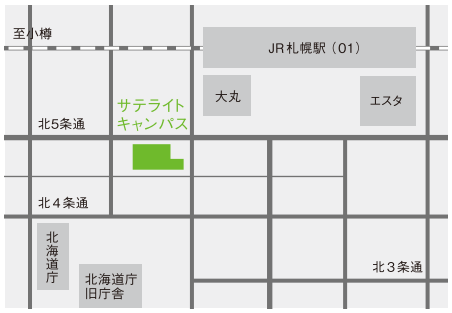
## 1. 芸術の森キャンパス相談窓口
（随時実施）

場所　札幌市立大学 芸術の森キャンパス 地域連携研究センター
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
Tel　011-592-2346
対応者　地域連携専門員　後町光夫




## 2. 桑園キャンパス相談窓口
（随時実施）

場所　札幌市立大学 桑園キャンパス
〒060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目
Tel　011-726-2500（代表）
対応者　地域連携専門員　後町光夫




## 3. サテライトキャンパス相談窓口
（随時実施）

場所　札幌市立大学 サテライトキャンパス 地域連携研究センター
〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45ビル12階
Tel　011-218-7500
対応者　地域連携専門員　後町光夫

ご来訪の折にはご面倒でもあらかじめ電話またはメールにてご連絡をお願いいたします。
日時と場所をご相談させていただきます。

お問い合わせ・連絡先　札幌市立大学　地域連携課　地域・産学連携担当
〒005-0864　札幌市南区芸術の森1丁目
TEL：011-592-2346　FAX：011-592-2369　E-mail：sangaku@jimu.scu.ac.jp

**札幌市立大学**
**研究・活動事例集2014**


編集　札幌市立大学地域連携研究センター
制作協力　石澤 静香（デザイン学部３期生）
発行日　2015(平成27)年6月30日
発行　札幌市立大学地域連携研究センター


〒005-0864　札幌市南区芸術の森1丁目
TEL:011-592-2346　FAX:011-592-2369
http://www.scu.ac.jp
E-mail: crc@jimu.scu.ac.jp

D N

www.scu.ac.jp

札幌市立大学
SAPPORO CITY UNIVERSITY

大学本部・デザイン学部・デザイン研究科
芸術の森キャンパス：005-0864 札幌市南区芸術の森１丁目

看護学部・看護学研究科・助産学専攻科
桑園キャンパス：060-0011 札幌市中央区北11条西13丁目